

大阪大学人間科学部

学 生 便 覧

平成 29 年度

平成29年度 人間科学部・人間科学研究科 学年暦（行事予定）

年	月	日	曜日	学期	事	項	
29	4	3	月	春 学 期	入学式		
		4	火		学部新入生履修指導		
		5	水		学部2・3・4年次生履修指導、大学院生履修指導		
		10	月		春学期授業開始		
		14	金		課程博士論文題目届提出期限（16時）		
		中旬			春学期開講（ターム科目）、夏学期開講（ターム科目）、春・夏学期開講（セメスター科目）、通年開講、夏季集中講義開講の授業科目履修登録申請期限（Web入力） 【履修登録申請期限は別途掲示等により通知します。】		
		25	火		大学院研究計画書提出期限（16時）		
		下旬			春学期開講（ターム科目）、春・夏学期開講（セメスター科目）、通年開講の授業科目履修登録取消期間（Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。】		
		29	土		いちょう祭準備（4月29日） いちょう祭（4月30日～5月1日） 大阪大学記念日（5月1日） 授業休業日（5月2日） いちょう祭後片付け（5月2日）		
	5	2	火	課程博士論文提出期限（16時）			
		11	木				
	6	9	金	夏 学 期	春学期授業終了		
		12	月		夏学期授業開始		
		下旬			夏学期開講（ターム科目）の授業科目履修登録変更期間（Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。】		
	下旬		夏学期開講（ターム科目）の授業科目履修登録取消期間（Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。】				
	8	上旬			夏季集中講義開講の授業科目履修登録変更期間（Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。】		
		7	月		夏学期授業終了		
		8	火		} 夏季休業（集中講義Aゾーン：8月28日～9月 1日） （集中講義Bゾーン：9月 4日～9月 8日） （集中講義Cゾーン：9月11日～9月15日）		
	9	30	土				
	10	2	月		秋 学 期	秋学期授業開始	
		中旬				秋学期開講（ターム科目）、冬学期開講（ターム科目）、秋・冬学期開講（セメスター科目）の各授業科目履修登録申請期限（Web入力） 【履修登録申請期限は別途掲示等により通知します。】	
		下旬		秋学期開講（ターム科目）、秋・冬学期開講（セメスター科目）の授業科目履修登録取消期間（Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。】			
	11	2	木	大学祭準備（11月2日） 授業休業日（11月2日、11月6日）			
		6	月	大学祭（11月3日～11月5日） 大学祭後片づけ（11月6日）			
		24	金	卒業論文・修士論文・課程博士論文題目届提出期限（16時）			
		28	火	冬学期授業開始 （ただし、11月30日及び12月1日、4日、7日は秋学期の授業を実施）			
	12	7	木	秋学期授業終了 （ただし、11月28日、29日及び12月5日、6日は冬学期の授業の授業を実施）			
		中旬		冬学期開講（ターム科目）の授業科目履修登録変更期間（Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。】			
		15	金	課程博士論文提出期限（16時）			
		下旬		冬学期開講（ターム科目）の授業科目履修登録取消期間（Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。】			
		27	水	} 冬季休業			
30	1	3	水	冬 学 期	卒業論文・修士論文提出期限（16時）		
		10	水		卒業論文・修士論文審査（学科目及び学系により日程が異なる）		
		上旬			卒業論文・修士論文審査（学科目及び学系により日程が異なる）		
	2	9	金		冬学期授業終了		
		13	火		大学院研究概要報告書提出期限（16時）		
		下旬			卒業式・学位記授与式		

- 注 1. 上記の行事予定の詳細及びその他の行事の予定については、掲示により通知します。
 2. 行事予定は、都合により変更することがありますので、掲示に注意してください。
 3. 全学共通教育における行事予定と一致しない日程もありますので、注意してください。
 4. 他学部等開講授業科目の履修登録期限は、このスケジュールとは別となるので、注意してください。
 5. 次年度以降の行事予定は、KOAN掲示板及び大阪大学人間科学研究科ホームページでお知らせします。

平成29年度 人間科学部・人間科学研究科 学年暦（授業スケジュール）

	春学期授業開講期間(4/1～6/11)
	夏学期授業開講期間(6/12～9/30)
	秋学期授業開講期間(10/1～12/7)
	※ただし、11/28,11/29,12/5,12/6は冬学期の授業を行う。
	※なお、12/26は月曜日授業の振替を行う。
	冬学期授業開講期間(11/28～3/31)
	※ただし、11/30,12/1,12/4,12/7は秋学期の授業を行う。
	集中講義期間

月/曜	日	月	火	水	木	金	土
平成29年 (2017年)		27	28	29	30	31	1
4月		入学式	学部新入生 履修指導	学部生・大学院 生履修指導			
	2	3	4	5	6	7	8
	9	①①	①①	①①	①①	①①	15
	10	11	12	13	14	15	
	16	②②	②②	②②	②②	②②	22
	17	18	19	20	21	22	
5月	23	③③	③③	③③	③③	③③	いちよう祭 準備
	24	25	26	27	28	29	
	いちよう祭 30						
		いちよう祭 1	いちよう祭 片付け 2	3	4	5	6
	7	④④	④④	④④	④④	④④	13
	8	9	10	11	12	13	
6月	14	⑤⑤	⑤⑤	⑤⑤	⑤⑤	⑤⑤	20
	15	16	17	18	19	20	
	21	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	27
	22	23	24	25	26	27	
	28	⑦⑦	⑦⑦	⑦⑦			
	29	30	31				
7月					⑦⑦	⑦⑦	3
	4	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧	10
	5	6	7	8	9	10	
	11	①⑨	①⑨	①⑨	①⑨	①⑨	17
	12	13	14	15	16	17	
	18	②⑩	②⑩	②⑩	②⑩	②⑩	24
8月	19	20	21	22	23	24	
	25	③⑪	③⑪	③⑪	③⑪	③⑪	
	26	27	28	29	30		
9月							1
	2	④⑫	④⑫	④⑫	④⑫	④⑫	8
	3	4	5	6	7	8	
	9	⑤⑬	⑤⑬	⑤⑬	⑤⑬	⑤⑬	15
	10	11	12	13	14	15	
	16	⑥⑭	⑥⑭	⑥⑭	⑥⑭	⑥⑭	22
10月	17	⑦⑮	⑦⑮	⑦⑮	⑦⑮	⑦⑮	
	18	19	20	21	22	23	
	23	24	25	26	27	28	29
	30	⑦⑮	31				
11月							
12月							
平成30年 (2018年)							
1月							
2月							
3月							

春、夏、秋、冬の各学期の区分ごとに開講：ターム科目
 ○数字 ターム科目の授業日 試 ターム科目の試験日
 春・夏学期または秋・冬学期の区分ごとに開講：セメスター科目
 ○数字 セメスター科目の授業日 試 セメスター科目の試験日

・・・土・日・祝日及び休業日を示す（緑字は祝日）。
 ・・・夏季休業期間を示す。
 ・・・大学行事又は入試準備のための臨時休業日（予定）を示す。

月/曜	日	月	火	水	木	金	土
10月	1	①①	①①	①①	①①	①①	
	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14
	15	②②	②②	②②	②②	②②	21
	16	17	18	19	20	21	
	22	③③	③③	③③	③③	③③	28
11月	23	④④	④④	④④	④④	④④	
	24	25	26	27	28	29	
	25	30	31				
12月				⑤⑤	大学祭準備	大学祭	大学祭
				1	2	3	4
	大学祭	大学祭片付け	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	11
	5	6	7	8	9	10	
	12	⑤⑤	⑦⑦	⑦⑦	⑥⑥	⑥⑥	18
	13	14	15	16	17	18	
平成30年 (2018年)	19	⑥⑥	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧	⑦⑦	25
	20	21	22	23	24	25	
	26	⑦⑦	①⑨	①⑨	⑦⑦		
	27	28	29	30			
1月						⑧⑧	2
	3	⑧⑧	②⑩	②⑩	⑧⑧	①⑨	9
	4	5	6	7	8	9	
	10	①⑨	③⑪	③⑪	①⑨	②⑩	16
	11	12	13	14	15	16	
	12	②⑩	④⑫	④⑫	②⑩	③⑪	23
2月	13	14	15	16	17	18	
	14	15	16	17	18	19	
	15	16	17	18	19	20	
	16	17	18	19	20	21	
	17	18	19	20	21	22	
	18	19	20	21	22	23	
3月	19	20	21	22	23	24	
	20	21	22	23	24	25	
	21	22	23	24	25	26	
	22	23	24	25	26	27	
	23	24	25	26	27	28	
	24	25	26	27	28	29	
平成30年 (2018年)	25	26	27	28	29	30	
	26	27	28	29	30	31	
	27	28	29	30	31		
	28	29	30	31			
	29	30	31				
	30	31					
1月		1	2	3	③⑪	④⑫	6
	7	8	9	10	⑤⑬	④⑫	13
	8	9	10	11	⑥⑭	⑤⑬	
	9	10	11	12	⑦⑮	⑥⑭	20
	10	11	12	13	⑧⑯	⑦⑮	
	11	12	13	14	⑨⑰	⑧⑯	27
2月	12	13	14	15	⑩⑱	⑨⑰	
	13	14	15	16	⑪⑲	⑩⑱	
	14	15	16	17	⑫⑲	⑪⑲	
	15	16	17	18	⑬⑲	⑫⑲	
	16	17	18	19	⑭⑲	⑬⑲	
	17	18	19	20	⑮⑲	⑭⑲	
3月	18	19	20	21	⑯⑲	⑯⑲	
	19	20	21	22	⑰⑲	⑰⑲	
	20	21	22	23	⑱⑲	⑱⑲	
	21	22	23	24	⑲⑲	⑲⑲	
	22	23	24	25	⑳⑲	⑳⑲	
	23	24	25	26	㉑⑲	㉑⑲	
平成30年 (2018年)	24	25	26	27	㉒⑲	㉒⑲	
	25	26	27	28	㉓⑲	㉓⑲	
	26	27	28	29	㉔⑲	㉔⑲	
	27	28	29	30	㉕⑲	㉕⑲	
	28	29	30	31	㉖⑲	㉖⑲	
	29	30	31		㉗⑲	㉗⑲	

（注1）暴風警報の発令等による授業休講があった場合には、別途補講日を設けることがある。

（注2）次年度以降の授業スケジュールは、K O A N 掲示板及び大阪大学人間科学研究科ホームページでお知らせします。

人間科学部学生便覧 目次

- ◆平成29年度学年暦（行事予定）
- ◆平成29年度学年暦（授業スケジュール）
- ◆目次
- ◆学生便覧に関する注意書き

<教育課程・履修関連ガイド>

人間科学部の教育目標・教育課程	1
平成29年度入学者の卒業に係る履修方法等	2
●平成29年度入学者の履修方法	2
●平成29年度入学者に対する履修指針	3
●平成29年度入学者の専門教育科目教育課程表（授業科目一覧表）	5
●留意事項	11
人間科学コース授業科目の案内	13
全学の学部学生対象に開設開講する授業科目・教育プログラムの案内	16
履修・試験・授業等に関すること	18
学科目所属・卒業論文に関すること	24

<修学・学生生活関連ガイド>

修学・学生生活等における諸事項	26
授業料	32
奨学金	35
健康管理・学生相談	37
保険・リスク管理	38
学部・研究科内の施設等	40
人間科学研究科各室及び研究科附属未来共創センターの紹介	42
就職	44
資格・免許	46
人間科学研究科・人間科学部教員一覧	50
人間科学研究科・人間科学部講義室等配置図	54

学生便覧に関する注意書き

この学生便覧は、皆さんがこれから大阪大学で学び、学業を修めるために必要となる重要な情報を掲載しています。また、学生生活を送るうえで必要となる手続きやルール、その他の案内事項についても取りまとめています。内容をよく読み、大切に保管しておくようにしてください。

なお、この学生便覧を冊子として配付するのは入学時のみとなります。在学中、学生便覧の内容に変更が生じたときや更新が生じた場合には、KOAN掲示板や大阪大学人間科学研究科・人間科学部のホームページに掲載しお知らせします。

<留意事項>

- この学生便覧に掲載する情報の多くは、大阪大学、あるいは大阪大学人間科学研究科・人間科学部が定める規程等に基づいています。代表的な規程について列挙します。

<大阪大学ホームページ／大阪大学規程集>

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/about/code.html>

以下、上記規程集に掲載されています。

○大阪大学学部学則

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000001.html

○大阪大学大学院学則

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000002.html

○大阪大学学位規程

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000093.html

○大阪大学学生納付金規程

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000468.html

○大阪大学人間科学部規程

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000156.html

○大阪大学大学院人間科学研究科規程

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000157.html

- この学生便覧に掲載する情報のうち、ホームページのURLを掲載しているものは、当該ホームページにより詳細な情報が掲載されています。確認してください。
- 時間割表やシラバスは、人間科学研究科・人間科学部ホームページ／在学生の情報へ
<http://www.hus.osaka-u.ac.jp>

平成 29 年度入学者

大阪大学人間科学部

教育課程・履修関連ガイド

人間科学部の教育目標・教育課程

教育目標

大阪大学の教育目標を受けて、人間科学部は1972年の発足以来、従来の文系・理系という枠にとらわれず、つねに新たな学際的領域に視野を広げながら、人間という存在そのもの、及び社会の現実を、行動学・社会学・教育学・共生学などのさまざまな学問分野の知見や研究方法を融合させて総合的にとらえ、21世紀の日本及び国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。このことは学部規程の中で「人間と人間の営む社会を科学的に考察し、人間とは何かを見つめ、人間という存在を理解し、人間らしく生きていける社会を作り出すことに貢献できる有能な人材を育成すること」としてきました。

その目的の実現のため、

- 学際性：従来の専門分野の壁を取り払い、複数の学問領域の方法や知識を集合させて教育・研究に取り組むこと。
 - 実践性：実験・調査・フィールドワークという、創設以来重視してきた人間科学的〈知〉の技法を洗練するとともに、〈知〉をアカデミズムのなかに閉じさせることなく、現場に向き合った問題発見・解決型の教育・研究に取り組むこと。
 - 国際性：社会及び大学のグローバル化の趨勢に配慮し、教育・研究活動の国際化に取り組み、グローバルスタンダードをみたく〈知〉の創出を目指すこと。
- という3つの理念を掲げ、各基本理念に沿った能力を備えた人材の育成を目指しています。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学のカリキュラム・ポリシーを受け、人間科学部は、人間についての理解を深め、現代の多様な問題を、総合的・学際的な視点で分析し、科学的な新しい人間観を社会に示し、人間の現実生活をより充実させることをめざしています。このため本学部では、以下のカリキュラムを提供します。

- 全学共通教育科目では、すべての学問領域を横断的に俯瞰できるような教養科目、情報処理科目、健康・スポーツ教育科目を履修します。特に外国語教育科目と統計学、数学の履修の比重を大きくして、その後の専門科目修得の基礎能力を培うようにしています。
- 専門教育科目では、人間を科学的に考察する必修・選択必修科目群を低学年次に配置することで、学生の知的関心を喚起し、研究分野選択の道しるべとしています。
- 高学年次においては学生各自が選択した行動学科目、社会学科目、教育学科目、共生学科目の専門領域を深めつつ、他の学科目さらには他学部科目等の履修を可能にし、多様な研究の視点を学際的に学べるよう、自由選択科目の幅を広く設定しています。
- 本学部のカリキュラムの最大の特徴は、2年生後半から3年生後半までの一年半に毎週3コマ枠を使う実験実習（計6単位）であり、少人数教育の中でより具体的な研究方法を学び、研究テーマを深く追究できるようにしていることです。
- すべての授業が英語によっておこなわれる「人間科学英語コース」があり、人間科学部の学生も英語による多彩な授業に参加できます。

平成 29 年度入学者の卒業に係る履修方法等

平成 29 年度入学者の履修方法

皆さんは、これから4年間、自身の興味や関心に基づき、大阪大学や大阪大学人間科学部が提供するさまざまな授業科目を履修することができます。ただし、卒業するためには、大阪大学人間科学部規程で定める履修方法により、必要な単位を修得しなければなりません。その履修方法については、次表のとおりです。

なお、大阪大学の教育課程は大きく共通教育と専門教育に区別されますが、共通教育（専門基礎教育科目を含んだ全学共通教育科目）の履修については、別途配付される「全学共通教育科目履修の手引」を参照し、卒業に必要な単位を修得するようにしてください。

専門教育（人間科学部専門教育科目）の履修については、次表の履修方法により、履修指針に従って、人間科学部専門教育科目教育課程表（授業科目一覧表）の授業科目の中から、卒業に必要な単位を修得するようにしてください。

大阪大学人間科学部規程 別表 1

全学共通教育科目(48 単位以上)			
共通教育系科目	教養教育科目		(1)基礎教養科目の基礎教養1及び基礎教養2のうち本学部指定の授業科目の中からそれぞれ2単位 (2)現代教養科目のうち本学部指定の授業科目の中から2単位 (3)先端教養科目及び国際教養科目の国際教養1の授業科目の中から2単位 (4)国際教養科目の国際教養2の中から8単位。この場合において、履修する科目は、本学部指定の授業科目のうち第2外国語として履修する外国語と関連する科目とし、4単位を限度として「特別外国語演習」を含めることができる
	言語・情報教育科目	外国語教育科目	(1)第1外国語の大学英語及び実践英語・専門英語のうち本学部指定の授業科目の中からそれぞれ3単位。ただし、英語を母語とする外国人留学生については、第1外国語として、大学英語の英語上級(Writing)のうち本学部指定の授業科目の中から2単位並びに国際教養科目の国際教養2の多文化コミュニケーション(日本語)及び第2外国語の日本語のうち本学部指定の授業科目の中から4単位を履修することができる。 (2)第2外国語のドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語及びスペイン語の中から1外国語を選択し、本学部指定の授業科目の中から4単位。ただし、外国人留学生については、1外国語として日本語を選択することができる。この場合において、第1外国語として、多文化コミュニケーション(日本語)又は日本語を履修している外国人留学生については、第2外国語として日本語を選択できない。 (3)選択外国語の英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、ギリシャ語及びラテン語の中から、本学部指定の授業科目を4単位
		情報処理教育科目	「情報活用基礎」2単位
	健康・スポーツ教育科目		「スポーツ実習A」1単位並びに「スポーツ科学」、「健康科学実習A」及び「健康科学」の中から1単位

専門教育 系科目	専門基礎教育科目	「統計学 A—I」2 単位、「統計学 A—II」2 単位、「数学 A」2 単位、「数学 B」2 単位。
以上 42 単位以上を修得し、なお、48 単位に至るまで共通教育系科目及び専門基礎教育科目のうち本学部が指定した授業科目(健康・スポーツ教育科目を除く。)から選択し、単位を修得すること。		
専門教育科目(80 単位以上)		
専門教育系科目	必修科目 24 単位	基礎科目の「人間科学概論」2 単位、「自然科学と人間科学」2 単位、「人文学と人間科学」2 単位、「行動学概論」2 単位、「社会学概論」2 単位、「教育学概論」2 単位、「共生学概論」2 単位、計 14 単位及び卒業演習 2 単位、卒業研究 8 単位。
	学科目指定の選択科目 36 単位	別に定める履修指針に従い基礎科目の選択必修科目 4 単位を含み、36 単位。
	自由選択科目 20 単位以上	別に定める履修指針に従い 20 単位以上を修得すること。

平成 29 年度入学者に対する履修指針

人間科学部における卒業要件としての、全学共通教育科目並びに専門教育科目の科目及び修得単位数は次の通りである。

I. 全学共通教育科目（48 単位以上）

A. 共通教育系科目

●教養教育科目（16 単位）

- (1) 基礎教養科目の基礎教養 1 及び基礎教養 2 の本学部指定の授業科目の中からそれぞれ 2 単位。
- (2) 現代教養科目の本学部指定の授業科目の中から 2 単位。
- (3) 先端教養科目及び国際教養科目の国際教養 1 の授業科目の中から 2 単位。
- (4) 国際教養科目の国際教養 2 の中から 8 単位。この場合において、履修する科目は、本学部指定の授業科目のうち第 2 外国語として履修する外国語と関連する科目とし、4 単位を限度として「特別外国語演習」を含めることができる。

●言語・情報教育科目（16 単位）

外国語教育科目（14 単位）

- (1) 第 1 外国語の大学英語及び実践・専門英語のうち本学部指定の授業科目の中からそれぞれ 3 単位。ただし、英語を母語とする外国人留学生については、第 1 外国語として、大学英語の英語上級（Writing）のうち本学部指定の授業科目の中から 2 単位並びに国際教養科目の国際教養 2 の多文化コミュニケーション（日本語）及び第 2 外国語の日本語のうち本学部指定の授業科目の中から 4 単位を履修することができる。
- (2) 第 2 外国語のドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語及びスペイン語の中から 1 外国語を選択し、本学部指定の授業科目の中から 4 単位。ただし、外国人留学生については、1 外国語として日本語を選択することができる。この場合において、第 1 外国語として、多文化コミュニケーション（日本語）又は日本語を履修している外国人留学生については、第 2 外国語として日本語を選択できない。

- (3) 選択外国語の英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、ギリシャ語及びラテン語の中から、本学部指定の授業科目を4単位。

情報処理教育科目（2単位）

「情報活用基礎」2単位。

●基礎セミナー

●健康・スポーツ教育科目（2単位）

「スポーツ実習A」1単位並びに「スポーツ科学」、「健康科学実習A」及び「健康科学」の中から1単位

B. 専門基礎教育科目

●専門基礎教育科目（8単位）

「統計学A－Ⅰ」2単位、「統計学A－Ⅱ」2単位、「数学A」2単位、「数学B」2単位。

以上42単位以上を修得し、なお、48単位に至るまで共通教育系科目及び専門基礎教育科目のうち本学部が指定した授業科目（健康・スポーツ教育科目を除く。）から選択し、単位を修得すること。

Ⅱ. 専門教育科目（80単位以上）

専門領域に関連する中核的な専門教育系科目を以下の方法により、必修科目24単位、学科目指定の選択科目36単位、自由選択科目20単位以上、合計80単位以上を修得すること。

A. 基礎科目・必修科目（14単位）

「人間科学概論」、「自然科学と人間科学」、「人文学と人間科学」、「行動学概論」、「社会学概論」、「教育学概論」、「共生学概論」を修得すること。

B. 学科目指定の選択科目（36単位）

●行動学科目

- ・基礎科目・選択必修科目から「心理学実験」を含む4単位。
- ・所属学科目の演習4単位及び実験実習6単位。
- ・所属学科目の選択科目から22単位以上。

（※ただし、「行動学研究法」（2単位）を修得しておくことが望ましい。）

→ 合計36単位以上

●社会学科目

- ・基礎科目・選択必修科目から「現代社会の課題」を含む4単位。
- ・所属学科目の演習4単位及び実験実習6単位。
- ・所属学科目の選択科目から22単位以上。

→ 合計36単位以上

●教育学科目

- ・基礎科目・選択必修科目から「現代日本の教育問題」を含む4単位。

（所属学科目の志望において、臨床心理学分野あるいは教育心理学分野を希望する場合は、

「現代日本の教育問題」に加えて、「心理学実験」を修得しておくことが望ましい。）

- ・所属学科目の演習4単位及び実験実習6単位。
- ・所属学科目の選択科目から22単位以上。

→ 合計36単位以上

●共生学科目

- ・基礎科目・選択必修科目から「共生の理論と実践」を含む4単位。
- ・所属学科目の演習4単位及び実験実習6単位。
- ・所属学科目の選択科目から22単位以上。

→ 合計36単位以上

C. 自由選択科目（20単位以上）

別表3の全授業科目の中から、20単位以上を修得すること。

なお、別表4（G30人間科学コース）の授業科目及び人間科学部以外の専門教育科目（国際交流科目、コミュニケーションデザイン科目、グローバルコラボレーション科目及び在学中に単位互換に関する協定を結んでいる大学で修得した科目を含む）のうち、指導教員の指導により、10単位を限度として、自由選択科目の単位として算入することができる。

また、全学共通教育科目の専門基礎教育科目（本学部が指定した授業科目）のうち、全学共通教育科目の卒業要件単位として算入しなかった単位は自由選択科目の単位として算入することができる。

D. 必修科目（10単位）

4年次以後、卒業演習及び卒業研究を修得すること。

なお、卒業研究8単位については、卒業演習の単位を修得した者のみ履修できるものとする。

平成29年度入学者の人間科学部専門教育科目教育課程表（授業科目一覧表）

大阪大学人間科学部規程 別表3

区 分		授 業 科 目 名	単位数	分 類	配当年次
基礎科目	必修科目	人間科学概論	2	講 義	1
		自然科学と人間科学	2	講 義	1
		人文学と人間科学	2	講 義	1
		行動学概論	2	講 義	1
		社会学概論	2	講 義	1
		教育学概論	2	講 義	1
		共生学概論	2	講 義	1
	選択必修科目	心理学実験	2	実験実習	2
		現代社会の課題	2	講 義	2
		現代日本の教育問題	2	講 義	2
		共生の理論と実践	2	講 義	2
行動学科目	選択科目	行動学研究法	2	講 義	2～3
		基礎心理学	2	講 義	2～3
		認知心理生理学	2	講 義	2～3
		認知心理学	2	講 義	2～3
		動機づけ心理学	2	講 義	2～3
		基礎心理学演習Ⅰ	2	演 習	3
		基礎心理学演習Ⅱ	2	演 習	3

区 分		授 業 科 目 名	単位数	分 類	配当年次
行動学科目	選択科目	認知脳心理学	2	講 義	2～3
		認知脳心理学演習Ⅰ	2	演 習	3
		認知脳心理学演習Ⅱ	2	演 習	3
		応用認知心理学	2	講 義	2～3
		ヒューマン・ファクトーズ心理学	2	講 義	2～3
		交通心理学	2	講 義	2～3
		応用認知心理学演習Ⅰ	2	演 習	3
		応用認知心理学演習Ⅱ	2	演 習	3
		社会心理学	2	講 義	2～3
		集団力学	2	講 義	2～3
		社会心理学演習Ⅰ	2	演 習	3
		社会心理学演習Ⅱ	2	演 習	3
		臨床死生学・老年行動学	2	講 義	2～3
		高齢者行動論	2	講 義	2～3
		エイジングの科学	2	講 義	2～3
		臨床死生学・老年行動学演習Ⅰ	2	演 習	3
		臨床死生学・老年行動学演習Ⅱ	2	演 習	3
		環境評価論	2	講 義	2～3
		人間環境論	2	講 義	2～3
		生活環境論	2	講 義	2～3
		環境行動学演習Ⅰ	2	演 習	3
		環境行動学演習Ⅱ	2	演 習	3
		産業心理学	2	講 義	2～3
		安全行動学	2	講 義	2～3
		安全行動学演習Ⅰ	2	演 習	3
		安全行動学演習Ⅱ	2	演 習	3
		人間行動学実験実習Ⅰ	2	実 験 実 習	2
		人間行動学実験実習Ⅱ	2	実 験 実 習	3
		人間行動学実験実習Ⅲ	2	実 験 実 習	3
		比較発達心理学	2	講 義	2～3
		比較発達行動学	2	講 義	2～3
		発達臨床心理学	2	講 義	2～3
		比較発達心理学演習Ⅰ	2	演 習	3
		比較発達心理学演習Ⅱ	2	演 習	3
		行動生理学	2	講 義	2～3
		学習生理学	2	講 義	2～3
		感覚生理学	2	講 義	2～3
		行動生理学演習Ⅰ	2	演 習	3
		行動生理学演習Ⅱ	2	演 習	3
		多変量統計科学	2	講 義	2～3
		推測統計科学	2	講 義	2～3
		統計情報科学	2	講 義	2～3
		行動統計科学演習Ⅰ	2	演 習	3
		行動統計科学演習Ⅱ	2	演 習	3
		行動形態学	2	講 義	2～3
		生物人類学	2	講 義	2～3
		人類遺伝学	2	講 義	2～3
		行動形態学演習	2	演 習	3

区 分		授 業 科 目 名	単位数	分 類	配当年次
行動学科目	選択科目	生物人類学演習	2	演 習	3
		比較行動学	2	講 義	2～3
		霊長類心理学	2	講 義	2～3
		動物園行動学	2	講 義	2～3
		比較行動学演習Ⅰ	2	演 習	3
		比較行動学演習Ⅱ	2	演 習	3
		行動生態学実験実習Ⅰ	2	実 験 実 習	2
		行動生態学実験実習Ⅱ	2	実 験 実 習	3
		行動生態学実験実習Ⅲ	2	実 験 実 習	3
社会学科目	選択科目	理論社会学	2	講 義	2～3
		現代社会学	2	講 義	2～3
		社会学説史	2	講 義	2～3
		理論社会学演習Ⅰ	2	演 習	3
		理論社会学演習Ⅱ	2	演 習	3
		経験社会学	2	講 義	2～3
		計量社会学	2	講 義	2～3
		社会情報学	2	講 義	2～3
		社会データ科学	2	講 義	2～3
		宗教社会学	2	講 義	2～3
		社会調査演習Ⅰ	2	演 習	3
		社会調査演習Ⅱ	2	演 習	3
		文化社会学	2	講 義	2～3
		比較社会学	2	講 義	2～3
		コミュニケーション社会学	2	講 義	2～3
		メディアと社会	2	講 義	2～3
		ジェンダー論	2	講 義	2～3
		家族社会学	2	講 義	2～3
		社会変動論	2	講 義	2～3
		文化社会学演習Ⅰ	2	演 習	3
		文化社会学演習Ⅱ	2	演 習	3
		社会保障政策論Ⅰ	2	講 義	2～3
		社会保障政策論Ⅱ	2	講 義	2～3
		比較福祉論Ⅰ	2	講 義	2～3
		比較福祉論Ⅱ	2	講 義	2～3
		市民活動論	2	講 義	2～3
		ボランティア社会論	2	講 義	2～3
		福祉社会論演習Ⅰ	2	演 習	3
		福祉社会論演習Ⅱ	2	演 習	3
		社会環境学実験実習Ⅰ	2	実 験 実 習	2～3
		社会環境学実験実習Ⅱ	2	実 験 実 習	2～3
		社会環境学実験実習Ⅲ	2	実 験 実 習	2～3
		人間科学基礎理論	2	講 義	2～3
		認知システム論	2	講 義	2～3
		科学哲学	2	講 義	2～3
		言語・情報論	2	講 義	2～3
		現代思想論	2	講 義	2～3
		表象・記号学	2	講 義	2～3
		哲学の人間学	2	講 義	2～3

区 分		授 業 科 目 名	単位数	分 類	配当年次
社会学科目	選択科目	行為と倫理	2	講 義	2～3
		比較文明学	2	講 義	2～3
		文明動態学	2	講 義	2～3
		比較思想史	2	講 義	2～3
		現代人間学演習Ⅰ	2	演 習	3
		現代人間学演習Ⅱ	2	演 習	3
		現代人間学実験実習Ⅰ	2	実験実習	2
		現代人間学実験実習Ⅱ	2	実験実習	3
		現代人間学実験実習Ⅲ	2	実験実習	3
		人類学理論	2	講 義	2～3
		グローバル化と文化	2	講 義	2～3
		科学技術と文化	2	講 義	2～3
		異文化理解	2	講 義	2～3
		応用人類学	2	講 義	2～3
		フィールド調査法	2	講 義	2～3
		政治経済の人類学	2	講 義	2～3
		人類学文献講読	2	講 義	2～3
		文化人類学演習Ⅰ	2	演 習	3
		文化人類学演習Ⅱ	2	演 習	3
		文化人類学実験実習Ⅰ	2	実験実習	2～3
		文化人類学実験実習Ⅱ	2	実験実習	2～3
		文化人類学実験実習Ⅲ	2	実験実習	2～3
教育学科目	選択科目	教育人間学Ⅰ	2	講 義	2～3
		教育人間学Ⅱ	2	講 義	2～3
		外国教育史	2	講 義	2～3
		教育哲学	2	講 義	2～3
		教育思想史	2	講 義	2～3
		教育人間学演習Ⅰ	2	演 習	3
		教育人間学演習Ⅱ	2	演 習	3
		教育工学Ⅰ	2	講 義	2～3
		教育工学Ⅱ	2	講 義	2～3
		教育工学演習Ⅰ	2	演 習	3
		教育工学演習Ⅱ	2	演 習	3
		教育心理学Ⅰ	2	講 義	2～3
		教育心理学Ⅱ	2	講 義	2～3
		教育心理学演習Ⅰ	2	演 習	3
		教育心理学演習Ⅱ	2	演 習	3
		教育コミュニケーション学Ⅰ	2	講 義	2～3
		教育コミュニケーション学Ⅱ	2	講 義	2～3
		教育コミュニケーション学演習Ⅰ	2	演 習	3
		教育コミュニケーション学演習Ⅱ	2	演 習	3
		臨床心理学Ⅰ	2	講 義	2～3
		臨床心理学Ⅱ	2	講 義	2～3
		臨床心理学演習Ⅰ	2	演 習	3
		臨床心理学演習Ⅱ	2	演 習	3
		臨床教育学実験実習Ⅰ	2	実験実習	2
		臨床教育学実験実習Ⅱ	2	実験実習	3
		臨床教育学実験実習Ⅲ	2	実験実習	3

区 分		授 業 科 目 名	単位数	分 類	配当年次
教育学科目	選択科目	教育と社会	2	講 義	2～3
		教育社会学	2	講 義	2～3
		教育動態学	2	講 義	2～3
		教育社会学演習Ⅰ	2	演 習	3
		教育社会学演習Ⅱ	2	演 習	3
		教育制度学	2	講 義	2～3
		比較教育制度学	2	講 義	2～3
		学校経営学	2	講 義	2～3
		日本教育史	2	講 義	2～3
		教育制度学演習Ⅰ	2	演 習	3
		教育制度学演習Ⅱ	2	演 習	3
		生涯教育学	2	講 義	2～3
		共生教育学	2	講 義	2～3
		ジェンダーと教育	2	講 義	2～3
		人権教育論	2	講 義	2～3
		生涯教育学演習Ⅰ	2	演 習	3
		生涯教育学演習Ⅱ	2	演 習	3
		学校社会学	2	講 義	2～3
		コミュニティ教育学	2	講 義	2～3
		教育文化学	2	講 義	2～3
		教育文化学演習Ⅰ	2	演 習	3
		教育文化学演習Ⅱ	2	演 習	3
		教育環境学実験実習Ⅰ	2	実 験 実 習	2
		教育環境学実験実習Ⅱ	2	実 験 実 習	3
		教育環境学実験実習Ⅲ	2	実 験 実 習	3
共生学科目	選択科目	共生の技法Ⅰ	2	講 義	2～3
		共生の技法Ⅱ	2	講 義	2～3
		フィールドワーク論Ⅰ	2	講 義	2～3
		フィールドワーク論Ⅱ	2	講 義	2～3
		共生の人間学Ⅰ	2	講 義	2～3
		共生の人間学Ⅱ	2	講 義	2～3
		共生の人間学演習Ⅰ	2	演 習	3
		共生の人間学演習Ⅱ	2	演 習	3
		共生社会論Ⅰ	2	講 義	2～3
		共生社会論Ⅱ	2	講 義	2～3
		共生社会論Ⅲ	2	講 義	2～3
		共生社会論演習Ⅰ	2	演 習	3
		共生社会論演習Ⅱ	2	演 習	3
		共生行動論Ⅰ	2	講 義	2～3
		共生行動論Ⅱ	2	講 義	2～3
		共生行動論演習Ⅰ	2	演 習	3
		共生行動論演習Ⅱ	2	演 習	3
		共生教育論Ⅰ	2	講 義	2～3
		共生教育論Ⅱ	2	講 義	2～3
		共生教育論演習Ⅰ	2	演 習	3
		共生教育論演習Ⅱ	2	演 習	3
		国際協力学Ⅰ	2	講 義	2～3
		国際協力学Ⅱ	2	講 義	2～3

区 分		授 業 科 目 名	単位数	分 類	配当年次
共生学 科目	選択科目	国際協力学演習Ⅰ	2	演 習	3
		国際協力学演習Ⅱ	2	演 習	3
		多文化共生学Ⅰ	2	講 義	2～3
		多文化共生学Ⅱ	2	講 義	2～3
		多文化共生学演習Ⅰ	2	演 習	3
		多文化共生学演習Ⅱ	2	演 習	3
		地域創生論Ⅰ	2	講 義	2～3
		地域創生論Ⅱ	2	講 義	2～3
		地域創生論演習Ⅰ	2	演 習	3
		地域創生論演習Ⅱ	2	演 習	3
		コンフリクトと共生Ⅰ	2	講 義	2～3
		コンフリクトと共生Ⅱ	2	講 義	2～3
		コンフリクトと共生演習Ⅰ	2	演 習	3
		コンフリクトと共生演習Ⅱ	2	演 習	3
		共生学実験実習Ⅰ	2	実験実習	2
		共生学実験実習Ⅱ	2	実験実習	3
		共生学実験実習Ⅲ	2	実験実習	3
共通 科目	必修科目	卒業演習	2	卒業演習	4
		卒業研究	8	卒業研究	4
	選択科目	情報処理演習Ⅰ	2	演 習	2～3
		情報処理演習Ⅱ	2	演 習	2～3
		情報処理演習Ⅲ	2	演 習	2～3
		人間科学特殊講義Ⅰ	2	講 義	2～3
		人間科学特殊講義Ⅱ	2	講 義	2～3
		人間科学特殊講義Ⅲ	2	講 義	2～3
		人間科学特殊講義Ⅳ	2	講 義	2～3
		自然地理学	2	講 義	2～3
		特別研究Ⅰ	2	特別研究	4
		特別研究Ⅱ	2	特別研究	4
		特別研究Ⅲ	2	特別研究	4
		特別研究Ⅳ	2	特別研究	4
		特別研究Ⅴ	2	特別研究	4
		特別研究Ⅵ	2	特別研究	4
		海外特別研究Ⅰ	2	特別研究	2～4
		海外特別研究Ⅱ	2	特別研究	2～4
		海外特別研究Ⅲ	2	特別研究	2～4
		海外特別研究Ⅳ	2	特別研究	2～4
		海外特別研究Ⅴ	2	特別研究	2～4
		海外特別研究Ⅵ	2	特別研究	2～4
		インターンシップ実習 A	2	実 習	3
		インターンシップ実習 B	2	実 習	3
		キャリアデザイン概論	2	講 義	3
		総合人間科学Ⅰ	2	講 義	2～3
		総合人間科学Ⅱ	2	講 義	2～3
		総合人間科学Ⅲ	2	講 義	2～3
		総合人間科学Ⅳ	2	講 義	2～3
		人間科学学際実習Ⅰ	2	実 習	2～4
		人間科学学際実習Ⅱ	2	実 習	2～4

履修方法等に関連する留意事項は下記のとおりです。

(1) 2年次夏学期終了時点における修得単位について

全学共通教育科目48単位のうち、第1外国語4単位以上、第2外国語2単位以上を含む42単位以上を修得し、さらに専門教育科目のうち、(A)基礎科目・必修科目14単位以上、(B)所属学科目の基礎科目・選択必修科目を4単位以上、合計18単位以上修得していることを基準とする。

(2) 履修制限について

前項の基準に及ばないとき、2年次秋学期以後の専門教育科目の履修が制限される場合がある。

(3) 同一授業科目の履修について

同一授業科目の重複履修は認められない。ただし、講義題目・内容が異なるときに限り、重複履修して単位を修得することができる。

履修を希望する場合は、履修登録期間内に履修登録票を教務係に提出すること。

(4) 再試験について

修業年限が3年を超える学生については、専門教育科目のうち試験成績評価が「50点以上60点未満」の授業科目の再試験を受験することができる。

(5) 再履修について

試験成績評価が不合格の授業科目については、再履修することができる。

(6) 大学院人間科学研究科博士前期課程授業科目の履修について

4年次以後、指導教員の指導により、大学院人間科学研究科博士前期課程の科目を履修することができる。そのためには、全学共通教育科目48単位及び基礎科目18単位を含む、合計94単位以上を修得済みでなければならない。

修得した単位は、「特別研究」として12単位を限度とし、自由選択科目の単位とすることができる。自由選択科目の単位として算入する場合は、教務係より4年次秋学期頃に指示する方法に従い、届出を行うこと。

(7) 外国の大学で履修した科目の修得単位について

本学（本学部）と大学間（部局間）学生交流協定を締結している外国の大学に留学し、当該大学で授業科目を修得した場合、教務委員会で審査の上、単位の認定をすることがある。

認定を希望する場合は留学終了後、速やかに認定願（用紙は教務係で配付）を提出すること。

修得した単位は、履修方法の別表1の全学共通教育科目及び別表3の専門教育科目表区分欄に示す選択科目（共通科目を除く）あるいは「海外特別研究」（「海外特別研究」として認定できる単位は12単位を限度とし、自由選択科目の単位とすることができる。）として認定する。認定単位数は30単位以内とする。なお、認定した科目の成績証明書における評価

の表記は「認定」とする。

（８）協定校への交換留学中における卒業論文等の作成に直接関わる科目の履修について

本学（本学部）と大学間（部局間）学生交流協定を締結している大学への留学中における卒業論文作成に直接関わる人間科学部専門教育科目（注）の履修については、6単位を限度として認めることができる。

（注）卒業論文作成に直接関わりと考えられる科目例・・・実験実習Ⅰ～Ⅲ、卒業演習等

（９）未来共創センターにおける実践型学修活動の単位認定について

未来共創センターにおける実践型の諸活動に学生が主体的に関わり、その学修活動の成果等に対して単位認定を申請する場合は、所定の申請様式をセンターに提出すること。

なお、単位認定は、教務委員会で審査するとともに、認められた場合は共通科目の「人間科学学際実習Ⅰ・Ⅱ（各2単位）」として認定する。

（10）自由選択科目の単位算入に係る手続きについて

人間科学コースの授業科目（別表4）及び人間科学部以外の専門教育科目（国際交流科目、コミュニケーションデザイン科目、グローバルコラボレーション科目及び在学中に単位互換に関する協定を結んでいる大学で修得した科目を含む）から修得した単位を、自由選択科目の単位として算入する場合は、教務係より4年次秋学期頃に指示する方法に従い、届出を行うこと。

なお、全学共通教育科目の専門基礎教育科目（本学部が指定した授業科目）のうち、全学共通教育科目の卒業要件単位として算入しなかった単位を、自由選択科目の単位として算入する場合の届出は不要とする。

人間科学コース（学部英語コース）授業科目の案内

人間科学コース（学部英語コース）とは

人間科学部人間科学科には英語による授業の履修のみで学士の学位を取得できるコースとして人間科学コースが設置されています。このコースは、平成23年度からスタートし、世界各国から学生を受け入れています。1年生～4年生まで現在約50名が在籍し、人間科学部の建物で学んでおり、皆さんとの交流も期待されています。人間科学コースの授業科目はすべて英語で行われていますが、このコースの授業を皆さんも履修することができます。ただし、求められる英語能力は、原則、TOEFL-IBT85点以上、IELTS6.5以上です。

人間科学部では、所定の手続きにより、10単位を限度として、本学部が指定する科目から修得した単位を、自由選択科目の単位として算入することができる制度（履修指針を参照）があります。人間科学コース（学部英語コース）から修得した単位は、この制度の本学部が指定する科目に該当します。

人間科学コースの授業科目は次表のとおりです。関心がある場合には、授業の内容をシラバスで参照してください。

人間科学コース（学部英語コース）専門教育科目教育課程表（授業科目一覧表）

授 業 科 目 名	単位数	分 類	配当年次
Peace and Conflict Studies I	2	講 義	2～4
Sociology of Knowledge	2	講 義	2～4
Peace and Conflict Studies II	2	講 義	2～4
Seminar in Critical Studies of Globalization	2	演 習	2～4
Global Poverty and Development	2	講 義	2～4
Seminar in Human Rights and Cultural Relativism	2	演 習	2～4
Seminar in Measurements of Poverty and Inequality	2	演 習	2～4
Popular Culture in Japan	2	講 義	2～4
Current Issues in Japanese Law and Society	2	講 義	2～4
Gender and Development	2	講 義	2～4
Ethnographic Fieldwork	2	演 習	2～4
Seminar in Studies of Multicultural Societies	2	演 習	2～4
International Development and Collaboration I	2	講 義	2～4
International Development and Collaboration II	2	講 義	2～4
Issues in Global Human Sciences	2	講 義	2～4
Disaster Prevention and International Cooperation	2	講 義	2～4
Issues in Asian Anthropology	2	講 義	2～4
Multivariate Data Science	2	講 義	2～4
Comparative Study of Civilization	2	講 義	2～4
Seminar in International Labor Theory	2	演 習	2～4
Comparative Theories of Society and Culture	2	講 義	2～4

授 業 科 目 名	単位数	分 類	配当年次
Food, Culture and Society	2	講 義	2～4
Global Issues in Education	2	講 義	2～4
Issues in Gerontology	2	講 義	2～4
Peace Operations and the Global Community	2	講 義	2～4
Global Environment—Development Balance	2	講 義	2～4
Global Civil Society	2	講 義	2～4
International Trade and Investment	2	講 義	2～4
World Affairs and the Media	2	講 義	2～4
Economic Development	2	講 義	2～4
Seminar in Cultural Icons in Manga and Anime	2	演 習	2～4
Topics in Japanese Culture I	2	講 義	2～4
Topics in Japanese Culture II	2	講 義	2～4
Topics in Japanese Culture III	2	講 義	2～4
Topics in Japanese Culture IV	2	講 義	2～4
Topics in Japanese Society I	2	講 義	2～4
Topics in Japanese Society II	2	講 義	2～4
Topics in Japanese Society III	2	講 義	2～4
Topics in Japanese Society IV	2	講 義	2～4
Topics in Japanese Religion I	2	講 義	2～4
Topics in Japanese Religion II	2	講 義	2～4
Topics in Japanese Political Thought I	2	講 義	2～4
Topics in Japanese Political Thought II	2	講 義	2～4
Primateology in Japan	2	講 義	2～4
Diversity and Human Rights in Japan	2	講 義	2～4
Contemporary Educational Issues in Japan	2	講 義	2～4
Contemporary Japanese Thought	2	講 義	2～4
Japanese Aesthetics	2	講 義	2～4
Classic Poetry in China, Japan and Korea	2	講 義	2～4
Japanese Philosophical Thoughts in Global Contexts	2	講 義	2～4
History of Meiji Japan	2	講 義	2～4
Traditional Performing Arts in Contemporary Japanese Society	2	講 義	2～4
Gender in Contemporary Japanese Popular Culture	2	講 義	2～4
Diplomacy, Economics and Politics in Japan	2	講 義	2～4
Gender and Education	2	講 義	2～4
Sexuality and Education	2	講 義	2～4
Psychology of Aging	2	講 義	2～4
Seminar for Contemporary Philosophy	2	演 習	2～4
Social Stratification in Japanese Society	2	講 義	2～4
Special Topics in Human Sciences I	2	講 義	2～4
Special Topics in Human Sciences II	2	講 義	2～4

授 業 科 目 名	単位数	分 類	配当年次
Special Topics in Human SciencesⅢ	2	講 義	2～4
Special Topics in Human SciencesⅣ	2	講 義	2～4
Special Topics in Human SciencesⅤ	2	講 義	2～4
Statistics for Social Research	2	講 義	2～4
Sociological Theory	2	講 義	2～4
Cultural Anthropological Theory and Writing	2	講 義	2～4
Comparative Education	2	講 義	2～4
Advanced Economics	2	講 義	2～4
Advanced Politics	2	講 義	2～4
Applied Phenomenology	2	講 義	2～4
Sociology of Migration	2	講 義	2～4
Psychology of Perception and Cognition	2	講 義	2～4
Seminar in Intellectual History	2	演 習	2～4

全学の学部学生対象に開設開講する授業科目・教育プログラムの案内

国際交流科目

大阪大学では、海外の大学から受け入れる交換留学生の教育プログラムとして、英語により授業を実施する国際交流科目を開講しています。全学の教員がその専門にに応じて英語による講義を提供しています。この科目は、交換留学生のみならず、大阪大学の学生は誰でも受講し単位を修得することができます。

人間科学部では、所定の手続きにより、10単位を限度として、本学部が指定する科目から修得した単位を、自由選択科目の単位として算入することができる制度（履修指針を参照）があります。国際交流科目から修得した単位は、この制度の本学部が指定する科目に該当します。

なお、人間科学部では、人間科学コース（英語コース）の一部の科目が国際交流科目として提供されており、同一科目が人間科学コースと国際交流科目のそれぞれの開講区分で開講されるケースがあること（ただし、自由選択科目への算入にあってはどちらの開講区分であっても同じ扱い）に注意してください。

国際交流科目の履修手続き方法、開講科目等の詳細は大阪大学ホームページを検索・参照してください。また、授業の内容はKOANシラバスを確認してください。

大阪大学国際教育交流センター <http://ciee.osaka-u.ac.jp/education/>

コミュニケーションデザイン科目

大阪大学では、高等教育における新しい教育の目標として「高度汎用力」の育成を掲げ、コミュニケーションデザイン科目を開講しています。コミュニケーションデザイン科目は、平成29年度に大幅な改編を行いました。新たなコミュニケーションデザイン科目は、対話することを通して、課題を発見し、ともにその解決をめざし、社会のなかで実践するための基礎的な教育プログラムとして、学部高学年から大学院博士前期課程を対象に開講されています。

人間科学部では、所定の手続きにより、10単位を限度として、本学部が指定する科目から修得した単位を、自由選択科目の単位として算入することができる制度（履修指針を参照）があります。コミュニケーションデザイン科目から修得した単位は、この制度の本学部が指定する科目に該当します。

コミュニケーションデザイン科目の履修手続き方法、開講科目等の詳細は大阪大学ホームページを検索・参照してください。また、授業の内容はKOANシラバスを確認してください。

グローバルコラボレーション科目

大阪大学の教育目標の一つである「国際性」を強化するため、大阪大学グローバルイニシアティブセンターでは、グローバルコラボレーション科目を開講しています。グローバルコラボレーション科目は、①理論と方法論、②地域の多様性に関する知識、③現場で学ぶ視点の滋養、④実践による多角的な学び、と段階を踏んで学ぶことができ、文理系を問わず、高度な専門性と、専門性を越えた人的ネットワークのなかで専門性を発揮し得る力を兼ね備え、地球規模の諸課題について現場の視点に立って取り組むことができる人材を育成しています。大学院生を主体として開講される科目ですが、一部の科目は学部学生にも開講されています。

人間科学部では、所定の手続きにより、10単位を限度として、本学部が指定する科目から修得した単位を、自由選択科目の単位として算入することができる制度（履修指針を参照）があります。グローバルコラボレーション科目から修得した単位は、この制度の本学部が指定する科目

に該当します。

グローバルコラボレーション科目の履修手続き方法、開講科目等の詳細は下記ホームページを検索・参照してください。また、授業の内容はKOANシラバスを確認してください。

知のジムナスティックス（高度教養プログラム）

大阪大学では、「一定の専門知識を身につけ、（職業人あるいは研究者として）社会にまもなく出て行く学生に対して、専門教育以外に必要とされる知識や能力を与える教育」として、全学の3年次以上の学部学生及び大学院学生を対象とした、「知のジムナスティックス（高度教養プログラム）」を提供しています。

このプログラムは、研究科・学部を超えた学びとして、自らの専門とは異なる知の領域に触れること、研究科・学部の異なる学生の協働による学びを経験することを重視しており、大阪大学各研究科・学部等で開講されている科目から、高度教養教育にふさわしい科目を精選して提供しています。これらの総合大学ならではの多様な科目から、学生一人ひとりが“つよさ・しなやかさ・バランス感覚”を兼ね備えた知性の涵養のためのプログラムを自主的に設計して履修できます。知のジムナスティックス科目は、知識習得を中心としたものと多様なスキルの習得を含むものとがあり、それぞれの科目には、その特色や狙いに応じて、「世界を舞台に活動する」、「異分野の融合を社会に演出する」、「成熟した市民社会を創る」、「タフな知性で社会を輝かせる」の4種類のキーワードが付してあります。これらのキーワードを参考に、学生が一人ひとりの希望や計画にしたがって自由に科目を選択し、独自のプログラムを設計します。

なお、このプログラムには修了要件や修了認定等はありません。また、原則として所属している研究科・学部以外の部局が開講している科目を履修した場合には、プログラムの単位として認定し、成績証明書に高度教養科目である旨を記載します。

知のジムナスティックス（高度教養プログラム）の開講科目等の詳細は大阪大学ホームページを検索・参照してください。また、授業の内容はKOANシラバスを確認してください。

大阪大学・学際融合教育／知のジムナスティックス <http://trans-l.jp/chi-gym>

マルチリンガル・エキスパート養成学部プログラム

大阪大学では、多言語に精通し、現代世界の喫緊の課題に取り組む専門的な知識を備え、グローバルに活躍できる人材を養成することを目的として、マルチリンガル・エキスパート養成学部プログラムを開設しています。

人間科学部の学生は、外国語学部が開設する専門教育レベルの語学・文化学等に関する授業を体系的に学修することができる「英語・英米文化学プログラム」の履修を申請することができます。募集対象は2年次・3年次学生であり、プログラムの履修は外国語学部が許可した者に限ります。

本プログラムでは、読み、書き、聞き、話す国際的な場面で通用する総合的な高い英語能力を涵養するとともに、英語圏の言語、政治、経済、社会、歴史、思想に通暁した人材を育成することを目指します。修了要件を満たすと、修了認定証が交付されます。1月にガイダンスが実施されますので、関心のある人は参加してください。

本プログラムの履修申請手続、カリキュラム内容の詳細は下記ホームページを検索・参照してください。

マルチリンガル・エキスパート養成プログラム <http://www.mle.osaka-u.ac.jp>

履修・試験・授業等に関すること

学期の区分及び名称について

大阪大学では1年を4つに区分する「4学期制」を採用しています。各学期の名称及び始期は次のとおりです。授業開講期間は1学期あたり8週となります。

- ・春学期：4月1日
- ・夏学期：年度毎に定める（6月中旬）
- ・秋学期：10月1日
- ・冬学期：年度毎に定める（12月初旬）

【平成29年度 人間科学部・人間科学研究科】

（注）平成30年度以降はK O A N掲示板等でお知らせします。

春学期： 4月1日 ～ 6月11日	夏学期： 6月12日 ～ 9月30日
秋学期：10月1日 ～ 12月7日	冬学期：11月28日 ～ 3月31日

授業科目の分類及び名称について

開設する授業科目は、開講する期間により次のとおり分類します。

（1）学期の区分ごとに開講する授業科目：ターム科目

（開講する期間は、春、夏、秋、冬学期となります。）

（2）春学期・夏学期（秋学期・冬学期）の区分ごとに開講する授業科目：セメスター科目

（開講する期間は、春・夏学期、秋・冬学期となります。）

（3）通年にわたり開講する授業科目：通年科目

（開講する期間は、春～冬学期となります。）

（4）特定の期間に集中開講する授業科目：集中講義科目

人間科学部の専門教育科目の場合、ほとんどの授業科目が（2）のセメスター科目として開講されます。なお、一部の授業科目は（1）のターム科目、または（4）の集中講義科目として開講されます。

集中講義について

人間科学部専門教育科目のうち、主に3・4年次に配当する授業科目の一部については、夏季休業中の特定期間を3つのゾーンに区分する中で、集中講義科目として開講します。集中講義の日程及びその開講科目は学生に配付する時間割表及びK O A N掲示板でお知らせします。

【平成29年度 人間科学部・人間科学研究科集中講義】

（注）平成30年度以降はK O A N掲示板等でお知らせします。

学 期	ゾ ーン	期 間
夏学期	A	8月28日（月）～ 9月 1日（金）
	B	9月 4日（月）～ 9月 8日（金）
	C	9月11日（月）～ 9月15日（金）

授業時間について

授業時間は次のとおりです。ほとんどの授業科目は時限単位で開講されます。

第1時限		第2時限		第3時限		第4時限		第5時限		第6時限
8:50	休	10:30	休	13:00	休	14:40	休	16:20	休	18:00
}	み	}	み	}	み	}	み	}	み	}
10:20		12:00		14:30		16:10		17:50		19:30

授業時間割表及びシラバスについて

翌年度に開講する授業科目の授業時間割表及びシラバスについては、前年度3月末の時点で確定します。授業時間割表は人間科学研究科ホームページに掲載します。シラバスはKOANから参照してください。

人間科学研究科ホームページ シラバス/時間割

学 部 http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/students/syllabus_undergraduate.html

大学院 http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/students/syllabus_graduate.html

授業科目の履修登録・履修取消・変更登録について

学生は、履修方法、履修指針、教員の指導等に基づき、シラバス等を参考とし、自ら履修計画を立てて授業科目の選択履修を行わなければなりません。授業科目を履修するためには指定する期限までに、KOAN（学務情報システム）により履修登録を行う必要があります。

なお、履修登録に関する留意事項は次のとおりです。

- (1) 同一時間における履修登録は、重複してできません。
- (2) 履修登録をしていない科目については試験を受けることができません。
- (3) 履修科目の追加、変更は、指定された期間内に行ってください。
- (4) 全学共通教育科目の履修登録については、登録期間等が異なります。
- (5) 他学部履修申請は、当該科目担当教員の下承を得てください。

【平成29年度 人間科学部・人間科学研究科開講科目の履修登録等期間】

（注）平成30年度以降はKOAN掲示板等でお知らせします。

開講期間（科目分類）	授業開始日	履修登録期間	履修登録変更期間	履修登録取消期間
春～夏学期（セメスター科目）	4/10(月)	4/3(月)～4/21(金)		4/24(月)～4/28(金)
春学期（ターム科目）	4/10(月)			4/24(月)～4/28(金)
夏学期（ターム科目）	6/12(月)		6/12(月)～6/16(金)	6/26(月)～6/30(金)
夏季集中講義			8/1(火)～8/7(月)	8/1(火)～8/7(月)
秋～冬学期（セメスター科目）	10/2(月)	10/2(月)～10/16(月)		10/17(火)～10/23(月)
秋学期（ターム科目）	10/2(月)			10/17(火)～10/23(月)
冬学期（ターム科目）	11/28(火)		11/28(火)～12/14(木)	12/18(月)～12/22(金)

グレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度について

大阪大学では、平成26年度学部入学者からGPA制度を導入しています。

GPA制度は、学修の状況及び成果を示す指標としてのGPAを算出することにより、学生の学習意欲の向上及び適切な修学指導に資するとともに、教育の国際化を促進することを目的に行われています。

1. GPについて

成績の評価及び各評価に与えられるGPは、以下のとおり定めています。

成績の評価	S (90点以上)	A (80点以上 90点未満)	B (70点以上 80点未満)	C (60点以上 70点未満)	F (60点未満)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

2. GPAについて

当該学期におけるGPA（以下「学期GPA」という。）及び全在学期間におけるGPA（以下「通算GPA」という。）があります。学期GPA及び通算GPAを算出する計算式は以下のとおりです。（GPAの算出は、小数点第3位以下を切り捨てるものとします。）

【学期GPAを算出する計算式】

$$\text{学期GPA} = \frac{\text{(当該学期に評価を受けた各授業科目で得たGP} \times \text{当該授業科目の単位数)の合計}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計}}$$

【通算GPAを算出する計算式】

$$\text{通算GPA} = \frac{\text{(各学期に評価を受けた各授業科目で得たGP} \times \text{当該授業科目の単位数)の合計)の総和}}{\text{(各学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計)の総和}}$$

3. GPA算出の対象科目について

共通教育系科目、専門教育系科目、国際交流科目、コミュニケーションデザイン科目及びグローバルコラボレーション科目のうち、大阪大学学部学則第10条の7第2項に基づく試験の成績の評価を行う授業科目であって、各学部において卒業要件に算入できる授業科目とします。

ただし、次の各号に該当する授業科目については、GPAの計算から除くものとします。

- (1) 本学在学中に他の大学（短期大学を含む。）において履修した授業科目、又は外国の大学（短期大学を含む。）において履修した授業科目
- (2) 入学前に本学若しくは他の大学（短期大学を含む。）において履修した授業科目、又は外国の大学（短期大学を含む。）において履修した授業科目（科目等履修生として履修した授業科目を含む）
- (3) 本学在学中に大学以外の教育施設等における学修（短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修）を本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えられた授業科目
- (4) 大阪大学学部学則第14条から第15条までの規定による編入学等に伴い、本学の授業

科目を学修したものと同等以上の学力があると認定された授業科目
 (5) 前各号に掲げるもののほか、各学部学科が別に定める授業科目

※人間科学部では、専門教育科目教育課程表（人間科学部規程別表3）の基礎科目を除く選択科目中の演習、実習、実験実習、特別研究、卒業演習、卒業研究、地域言語基礎Ⅰ～Ⅲ及び人間科学コース専門教育科目教育課程表（人間科学部規程別表4）のFieldworkをGPAの対象外科目とします。

4. 「履修取消し」について

学生が学期の途中で授業科目の履修を中止したい場合は、学期ごとに定められた履修取消期間に、当該授業科目に係る履修登録を取り消すことができます。履修登録を取り消した授業科目については、学期GPA及び通算GPAの算出から除外します。なお、履修を取消した授業科目については、GPAから除く授業科目となり、学籍情報システム（KOAN）では「W」（Withdrawal）で表示されます。

大阪大学ホームページ／グレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/education/gpa>

試験について

試験については次のとおり要領を定めています。

1. 試験は通常授業の終了する学期の終りに行います。
2. 履修を申請していない科目については、原則として試験を受けることができません。
3. レポートをもって試験に代えるときは、提出条件及び期限を厳守してください。
4. 試験の際には、試験監督者の指示に従うほか、次のことに注意してください。
 - (1) 受験者は定刻までに、試験室に入室してください。
 - (2) 解答用紙は、答案記入の有無にかかわらず、提出してください。

試験等（レポート試験等を含む）における不正行為について

試験等（レポート試験等を含む）において、下記にあげる行為等を行った場合は不正行為とみなし、当該学期に受験した専門教育科目全ての成績評価を無効とします。

- (1) 持ち込み（使用）を許可された教科書、ノート、辞書等以外のものを使用した場合
- (2) カンニングペーパーの使用等、カンニングとみなされる行為を行った場合
- (3) 代人受験とみなされる行為を行った場合
- (4) その他試験監督者の指示に従わない場合
- (5) 授業担当教員が成績評価の対象として求めるレポート等の提出物において、他人の論文、著作、レポート、ウェブサイト、インターネット投稿、講義配布物（公表・未公表を問わない。）の一部または全部を剽窃した場合

成績評価に関する疑義申し立てについて

成績評価が筆記試験、レポート提出等の結果や出席状況などから判断して、明らかに誤記入（採点ミス、登録ミス）によるものと思われる場合は、成績評価に関する疑義申し立てを行うことができます。なお、成績評価の理由、根拠に関する申し立て及び成績評価についての特別な配慮を求める申し立ては受け付けません。

（受付期間）

疑義申し立てを行う授業科目の成績発表日から約1週間（土曜・日曜・祝日を除く）の期日で設定される受付期限までとします。（ただし、その他やむを得ない事情があると認められた場合は、この限りではありません。）

（申し立て方法）

人間科学研究科教務係において配付する「成績評価に関する疑義申立書（人間科学部・人間科学研究科）」に必要事項を記入の上、同係に提出してください。

授業・試験の欠席について

下記（別表）にあげる事由またはその他のやむを得ない事由により、授業及び試験を欠席した場合は、「欠席・試験欠席届」に医師の診断書または事実の確認できる証明書等を添付のうえ、教務係に提出し、許可を得た後、授業担当教員にその写しを提出してください。授業担当教員の判断により、一定の配慮を行います。

ただし、クラブ活動等の課外活動は、やむを得ない事由に該当しません。

（別表）

欠席事由	配慮を要する期間 （授業等に出席することができない範囲）
学校感染症（学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症）を罹患したことにより出席停止の措置を受けた場合	学校保健安全法施行規則第19条に規定する出席停止の期間
親族（2親等以内）が死亡した場合	配偶者・1親等…通夜、葬儀などのために要した日数（連続7日以内）、2親等…通夜、葬儀などのために要した日数（連続3日以内）
「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」に基づく裁判員の選任手続きのため及び裁判員の職務に従事するため裁判所に出頭した場合	裁判所に出頭した日
居住地及び通学経路に係る特別警報が発令された場合	特別警報が発令された日
教職課程の「教育（養護）実習」及び「介護等の体験」に参加する場合	「教育（養護）実習」及び「介護等の体験」の期間

気象警報発令時の授業の取扱いについて

大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市のいずれか、またはこれらの市を含む地域」に「暴風警報」または「特別警報」が発令された場合、授業は休講とします。

なお、同警報が解除された場合の取扱いは次のとおりです。

警報解除時刻	授業の取扱い
午前6時以前に解除された場合	全日授業実施
午前9時以前に解除された場合	午後授業実施
午前9時を経過しても解除されない場合	全日授業休業

【注意】解除の確認は、テレビ・ラジオ・インターネット等の報道によります。

【補足】授業時間帯中に暴風警報又は特別警報が発令された場合は、当該授業終了以後は休講とします。

交通機関運休の場合の取扱いについて

ストライキ等により交通機関が運休となった場合、本学部への通学路線のうち特に「阪急電車」が運休した場合に限って次のとおり取扱います。

運休解除時刻	授業の取扱い
午前6時以前に解除された場合	全日授業実施
午前9時以前に解除された場合	午後授業実施
午前9時を経過しても解除されない場合	全日授業休業

【注意】解除の確認は、テレビ・ラジオ・インターネット等の報道によります。

学科目所属・卒業論文に関すること

学科目の所属について

1年次から2年次の夏学期までは、主に全学共通教育科目と専門教育科目（基礎科目）の授業を中心に学びますが、2年次の秋学期からは、行動学、社会学、教育学、共生学のいずれかの学科目に所属し、それぞれの学科目の授業を中心に専門的な見識を深めていきます。

学科目志望届及び所属学科目の決定について

所属学科目の決定は2年次に行いますが、その振分けのスケジュールは次のとおりです。なお、学科目所属は、志望者数が基準を超えたときは選考を行いますので、必ずしも志望する学科目、専門分野に進めるとは限りません。

- ① 学科目決定の資料とするため、2年次の年度始め4月の履修ガイダンス時に配付する「学科目志望調査票」を、原則ガイダンス当日に教務係へ提出します。1年次終了時点までに希望する学科目を検討しておいてください。なお、この「学科目志望調査票」の提出が最終的な志望の届出ということではありません。
- ② 例年2年次の8月上旬に学科目振分けガイダンスを実施します。各学科目の紹介及び説明が行われます。当日配付する「学科目志望届」を、原則ガイダンス当日中に教務係へ提出します。この「学科目志望届」の提出が最終的な志望の届出となります。
- ③ 学科目振分け発表（所属学科目の決定）は、例年2年次の8月下旬にKOAN掲示板等によりお知らせします。
- ④ 例年2年次の9月下旬に学科目別ガイダンスを実施します。所属決定後に学科目ごとに集まり、2年次秋学期以降の履修指導等が行われます。

卒業論文の提出について

学部を卒業するためには、修業年限の4年以上在学し、大阪大学人間科学部規程で定める履修方法により必要な単位を修得し、卒業論文を提出して審査（口頭試問を含む）に合格しなければなりません。卒業論文は、指導教員等による指導を仰ぎながら、その準備並びに執筆を進めていきます。卒業論文の提出に係る手続き事項については、KOAN掲示板等によりお知らせします。なお、概要は次のとおりです。

- ① 学部4年次の卒業予定者は、あらかじめ指導教員の承認を得て論文題目を決定し、下記の期限までに教務係で所定の手続きを行ってください。なお、期限に遅れた場合、卒業論文は受理しません。

＜提出期限＞	卒業論文題目提出	1 1月下旬の指定する期日及び時間
	卒業論文提出	1月上旬の指定する期日及び時間

（注）提出の際には、本人及び指導教員の承認印が必要です。

- ② 論文の体裁及び枚数等は指導教員から指示されます。論文は散逸せぬよう綴じ込み、表紙に論文提出票を貼付してください。
- ③ 論文提出のための各種所定用紙は教務係で配付します。
 なお、卒業論文を提出できない学部4年次の学生は、論文題目届の提出期限までに「卒業論文提出延期届」を提出しなければなりません。

平成 29 年度

大阪大学人間科学部
大阪大学大学院人間科学研究科

修学・学生生活関連ガイド

修学・学生生活等における諸事項

学生に対する通知・連絡について

学生に対する諸通知は原則としてKOAN（学務情報システム）の掲示板及び学内の掲示板によって行いますので、毎日掲示板を見るよう習慣づけてください。

（１）KOAN（学務情報システム）掲示板

「マイハンダイ」（<https://my.osaka-u.ac.jp>）KOANポータルサイトを呼び出し接続します。

（２）学内掲示板

本館２階掲示板：授業実施関係、行事予定、その他

東館２階掲示板：各種案内掲示

国際交流室（本館２階）：留学生関係、海外留学・奨学金関係

学生支援室（本館２階）：就職・進学・インターンシップ関係

＊学系独自の掲示板もあります。（行動：３階、教育：４階、社会・人間：５階）

＊他学部・他研究科の授業科目等の通知については、当該学部・研究科の掲示によります。

なお、学生個人に対する通知や連絡は、掲示（KOAN掲示板を含む）によるものの他、郵送・携帯電話・Ｅメール等により行いますので、連絡を受けた場合は、その指示にしたがって速やかに対応または窓口に来てください。

学生証等について

学生証は本学の学生であることを証明するものであるだけでなく、証明書自動発行機、図書館（室）の利用、学内各窓口での提示等にも使用します。通学定期券発行控と共に所定のケースに収納し、汚損・破損・紛失しないように大切に取扱い、登校の際は必ず携帯するとともに、次の事項に留意してください。

- ① 学生証は修業年限内（学部生－４年、第３年次編入学生－２年、博士前期課程学生－２年、博士後期課程学生－３年）は有効です。修業年限を超えて在学する場合は教務係で再発行します。
- ② 通学定期乗車券発行控は毎年度当初に更新しますので、通学区間の定期券を購入する場合には教務係で受領してください。
- ③ 学生証及び通学定期乗車券発行控は他人に貸与、または譲渡してはいけません。
- ④ 学生証及び通学定期乗車券発行控の不正使用をしてはいけません。万が一、不正使用が発覚した場合には厳正に対処します。
- ⑤ 学生証は定期試験の際や、各種証明書等の申し込み、証明書自動発行機の利用、その他本学職員に請求された時は、必ず提示してください。
- ⑥ 学生証の記載内容に変更が生じた場合には、直ちに教務係に届け出てください。
- ⑦ 万が一、学生証を紛失、または汚損・破損・磁気不良により使用に支障が生じた場合には学生センターで再発行等の手続きを行ってください。通学定期乗車券発行控を紛失した場合は教務係に申し出てください。なお、紛失した学生証、通学定期乗車券発行控が見つかったときは、直ちに教務係に返付してください。

学籍に関する変更及び海外渡航等に関する届け出について

学籍に関する変更及び海外渡航等に関する届け出は次のとおりです。各所定様式については教務係で配付します。なお、＊を付した届け出は、別の項に詳細を掲載しています。

提出先：教務係

提出書類等	提出等期限	備考
＊休学願・復学願・退学願	異動希望日の2カ月前から1カ月以上前の間（厳守）	「指導教員所見（様式）」を併せて提出すること。
復学届	復学年月日の2カ月前から1カ月以上前の間（厳守）	
改正（改名）・転籍届	その都度（速やかに提出）	
本人、保護者の住所、電話番号等の変更	その都度（速やかにKOANで変更登録）	大学から重要な電話（メール）連絡・郵送等を行うことがありますので必ず登録を行うこと。
＊海外活動届及び海外留学・研修届	渡航日の1カ月以上前	留学や調査研究等で海外に渡航する場合は必ず提出すること。
一時帰国届（留学生のみ）	帰国日の1週間以上前	留学生は、一時日本を離れるときは、短期・長期に関わらず提出してください。
＊長期履修申請		大学院生のみ対象（申請条件あり）

休学、退学等の在学中の異動について

（１）在学年限及び休学（可能）期間

- ① 大阪大学学部学則に基づき、学部の在学年限は、休学期間を除き、8年と定められています。また、休学（可能）期間は通算で4年と定められています。
- ② 大阪大学大学院学則により、博士前期課程の在学年限は休学期間を除き4年と定められています。また、休学（可能）期間は通算で2年と定められています。
- ③ 大阪大学大学院学則により、博士後期課程の在学年限は休学期間を除き5年と定められています。また、休学（可能）期間は通算で3年と定められています。

（２）休学

休学を希望する者は、次の点に留意のうえ所定の手続きにより、教務係を通じて学部長・研究科長に休学願を提出し許可を得てください。

- ① 病気、その他やむを得ない理由で3ヶ月以上修学できない場合は、その学年の終わりまで休学をすることができます。なお、実際に休学した期間は、在学年数には算入されません。
- ② 人間科学部・人間科学研究科では、国内外での調査研究を理由とする休学は認めていません。
- ③ 未納の授業料がある場合には休学は認められません。
- ④ 休学期間中にその事由が消滅した場合、復学を願い出ることができます。なお、休学期間の満了により復学となる場合も「復学届」の提出をもってその意思を申し出る必要があります。

(3) 退学

退学を希望する者は、次の点に留意のうえ所定の手続きにより、教務係を通じて学部長・研究科長に退学願を提出し許可を得てください。

- ① 未納の授業料がある場合には退学は認められません。
- ② 在学年限の満了により以降在籍できない場合において、「退学願」が期限までに提出されない場合には、在学年限満了日をもって身分喪失とします。

長期履修制度について（大学院生のみ）

長期履修制度とは、大学院学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修して課程を修了することができる制度です。

許可対象者及び長期履修可能年数は次のとおりです。長期履修を申請する場合の在学年限は、博士前期課程は4年、博士後期課程は5年を限度とし、学年の始めから開始となります。申請の可否は審査により決定します。長期履修制度の申請等に関することは、別途周知を行います。詳細は教務係に問い合わせてください。

<許可対象者>

下記事由により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することが認められた者。ただし、各課程最終学年の者を除きます。

- (1) 定まった職業を有する者
- (2) 出産・育児・介護・病気や障がいに伴う療養等を行う必要のある者

証明書の交付等について

本学では、証明書自動発行機により、学割証・在学証明書・健康診断証明書・成績証明書・卒業（修了）見込証明書・卒業（修了）証明書（学内の内部進学者のみ）が発行されます。なお、発行の際には学生証が必要です。

◆証明書自動発行機で発行可能な証明書

キャンパス	設置場所		台数	利用時間（月～金曜日） 祝日、年末・年始を除く
豊 中	全学教育推進機構管理・講義棟（A棟）	2階教務係前	1台	8：30～17：00
	豊中学生センター学生交流棟	2階ホール	2台	8：30～17：00
吹 田	医学部医学科共通棟	1階玄関	1台	8：30～17：00
	工学部管理棟U1M棟	1階教務係横	2台	9：00～17：00
	吹田学生センターICホール	1階	1台	8：30～17：00
箕 面	言語文化研究科・外国語学部研究・講義棟（A棟）	1階南側玄関	2台	8：30～19：00 （授業のない日は17：00まで）

◆証明書自動発行機で発行可能な証明書

証明書の種類	発行対象
(学部・大学院共通) 学割証（１日３枚、年間１０枚まで） 在学証明書 健康診断証明書 (学 部) 成績証明書 卒業見込証明書（最終年次の学生のみ） (大学院) 成績証明書 修了見込証明書 （博士前期課程最終年次の学生のみ）	在学する課程
(学 部) 成績証明書 卒業証明書 (大学院) 成績証明書（博士前期（修士）） 修了証明書（博士前期（修士））	卒業（修了）した課程 本学学部を卒業し、引き続き本学の大学院に入学した者 本学研究科博士前期課程を修了し、引き続き博士後期課程に進学した者

* 大学に英語氏名の登録をしている学生については、英語版の証明書も出力できます。

* 上記以外の証明書は教務係窓口に申請してください。証明書の種類（英文証明書、教職単位の修得に関する証明書等）や申請の時期などにより、交付までに時間を要する場合がありますので、余裕をもって申請してください。

オフィス・アワーについて

人間科学部・人間科学研究科ではオフィス・アワーを実施しています。授業内容等に関する学生の質問等に応じるための時間として、教員があらかじめ示す時間帯を設定し、その時間帯であれば、学生は基本的に予約なしで研究室を訪問することができます。オフィス・アワーの具体的な時間帯等については、学生用掲示板及び人間科学研究科ホームページに公開されます。

人間科学研究科ホームページ オフィス・アワー

<http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/students/officehour.html>

卒業・修了後の進路について

卒業・修了年次の学生（博士後期課程にあっては単位修得退学者も対象）は、「進路・就職報告システム」で必ず進路情報・就職先の情報を登録しなければなりません。報告期限（その後の更新は可能）は、卒業論文、修士学位論文、博士学位論文の題目届提出期限の期日としています。

台風接近に伴う気象警報発令時における学内連絡バスの運行について

台風接近に伴い、「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市のいずれか、またはこれらの市を含む地域」に暴風警報又は特別警報が発令された場合、学内連絡バスの運行については下記のとおりとします。

- 午前６時以前に警報が解除された場合 → 時刻表どおり運行

- 午前9時以前に警報が解除された場合 → 午前12時以降運行（午前運休）
- 午前9時に警報が解除されない場合 → 終日運休

学生の掲示等について

学生の掲示物は教務係で許可を得たうえで下記の事項を遵守のうえ、指定された掲示板に掲示してください。

- ・掲示には、掲示責任者氏名及び掲示日を記し、期限の切れた掲示は速やかに取り除いてください。
- ・原則として掲示期間は7日以内とします。
- ・掲示物の大きさは、A3の大きさまでとします。

立看板を掲示する場合は、その場所を管理する部局の許可が必要です。学内においてビラ、雑誌、新聞等を発行もしくは配布するときは、実物1部を教務係へ届出てください。

学生の団体結成について

学生が学部・研究科内で団体等を結成しようとするときは、所定の様式により、事前に教務係に届け出て承認を受ける必要があります。全学的な団体等の結成については、学生センターに届け出て承認を受けてください。許可された団体は、毎年5月末日までに届出の更新をしなければいけません。また届出事項が変更したときも同様の手続きが必要です。この時に更新が行われない場合は、当該団体は解散したものとみなされます。なお、団体の結成、更新において、次に該当する場合は許可されないことがあります。

- (1) 団体等の目的及び団体の構成員氏名が明らかでないとき
- (2) 団体等の結成が学内の秩序を乱す恐れがあるとき
- (3) その他学部長・研究科長が不適当と認めるとき

海外留学について

大阪大学では様々なプログラムによる海外留学を積極的に推進しています。

○大阪大学交換留学（大学間派遣）

大阪大学と授業料等の相互不徴収及び単位互換等を明記する学生交流協定を締結している海外の大学（以下「協定校」という。）において、本学の学部又は大学院の正規課程に在籍する学生が、本学に在籍したまま、協定校で概ね1年以内の1学期又は複数の学期の間、科目の履修又は研究指導等の教育・研究の機会を得ることができます。

募集要項等の詳細については、下記大阪大学ホームページを検索・参照してください。

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html

○大阪大学交換留学（部局間派遣）

人間科学部と学生交流協定を締結している協定校においての交換留学については、人間科学研究科国際交流室に問い合わせてください。

○短期語学研修プログラム

大阪大学では多様な海外研修プログラムを実施しています。大阪大学ホームページ、KOAN掲示板及び国際交流室前掲示板にてお知らせしています。

学生の海外渡航について

学生が、教育・研究上の目的で海外渡航する場合は、事前に指導教員・受け入れ教員及び家族等に渡航内容等を十分に説明し、指導教員・受け入れ教員の承認を得たうえで、所定の届出様式を教務係に提出する必要があります。教務係への提出期限は渡航日の1か月以上前とします。

（注1）危険情報が出されていない地域への渡航であっても届出は必要です。

（注2）大学院生で危険度2の地域に渡航を予定している場合は、原則、2か月前までに教務係に提出してください。

なお、学部学生（研究生等を含む。）が危険度2以上の地域に渡航すること、大学院学生（大学院研究生等を含む。）が危険度3以上の地域に渡航することは原則として認めません。

また、学部学生（研究生等を含む。）が危険度1の地域に渡航する場合、大学院学生（大学院研究生等を含む。）が危険度1または2の地域に渡航する場合には、本研究科の海外研究活動検討委員会で渡航の可否について審議します。審議の結果によっては渡航の見送り等を指示することもあります。

＜危険情報は外務省海外安全ホームページの危険情報に基づきます＞

提出書類

提出書類（所定の届出様式）は次のとおりです。危険度に応じて必要書類が異なります。「海外危険地域への渡航に関する人間科学研究科の取扱い方針」に従って作成提出してください。

- ① 海外活動届（指導教員の押印が必要）及び別紙「渡航目的及び活動内容の詳細」
- ② 海外留学・研修届

※上記①②は、危険度に関わらず（危険情報が出されていない場合であっても）必ず提出が必要です。

※上記①別紙の作成にあたって、留学や学会出席の場合は留学先大学、参加学会の名称、開催日程等について、調査研究活動の場合は現地での調査内容や研究計画の詳細（現地での調査研究活動は人間科学研究科の研究倫理審査の承認を含む。）について、記入していること。
- ③ 指導教員あるいは受け入れ教員の署名押印のある理由書（任意の様式・指導教員の押印が必要）

※上記③は、危険度1以上の地域に渡航する場合には必ず提出が必要です。危険情報が出されている地域への具体的な渡航理由や安全面における対応・対策等（渡航日程と訪問先、渡航目的、経費の出所、渡航地域の危険度に関する情報、安全確保の方法、感染症への対策など）を理由書として提出すること。

学部学生（研究生等を含む。）

	「海外活動届」及び別紙「渡航目的及び活動内容の詳細」	海外留学・研修届	理由書
危険情報なし	○	○	
危険度1	○	○	○
危険度2	原則として渡航不可		
危険度3			
危険度4			

大学院学生（研究生等を含む。）

	「海外活動届」及び別紙「渡航目的及び活動内容の詳細」	海外留学・研修届	理由書
危険情報なし	○	○	
危険度1	○	○	○
危険度2	○	○	○
危険度3	原則として渡航不可		
危険度4			

※帰国後は教務係に帰国した旨の連絡をすること（方法は自由）

授業料

授業料の納入について

授業料は、前期（４月から９月まで）及び後期（１０月から翌年３月）の２期に分けて、前期は５月末、後期は１１月末までに年額の２分の１ずつを納入します。ただし、休学や退学に伴う授業料の月割免除は、前期は４月末日までに、後期は１０月末日までに願い出ることにより、在籍（在学）月数の授業料納入をもって行われます。

授業料は、本学窓口での現金収納は行いません。次のどちらかの方法で納入してください。なお、原則は（１）の口座振替により納入してください。

（１）学生本人名義の金融機関等口座からの口座振替（口座からの引き落とし）。

（２）やむを得ず口座振替の手続きを行っていない者は、「振込依頼書」により金融機関等窓口で大学指定口座へ振り込み

注１）口座振替の手続き書類は、大学の入学手続きの際に送付・配付しています。

注２）口座振替日は毎年度別途掲示等が行われるとともに、ＫＯＡＮに登録されている学生本人住所宛に事前通知が行われます。

注３）口座振替の手続きを行っていない者には、ＫＯＡＮに登録されている学生本人住所宛に「振込依頼書」が送付されます。

注４）「振込依頼書」により振り込む場合の振り込み手数料は本人負担となります。

授業料の債権は、新たに入学する者は入学月の初日に、在学学生は前年度３月に確定します。休学や退学等の学生としての身分の異動を願い出る者は、必ず異動日の１カ月前（ただし、２カ月前から受付を行います）までに手続きを行ってください。この手続きが行われていない場合には、授業料の債権が発生し、当該授業料を納入しなければなりません。

授業料免除・徴収猶予の申請を行っていない者、または、申請したが授業料の全額免除が許可されずに指定された期限までに必要な授業料の納入を完了しなかった者については、次の措置が取られます。

（１）大学から本人及び保護者等に督促が行われます。

（２）督促してもなお、相当期間を経過しても授業料の納入が完了しないときは、除籍の対象者となります。

【大阪大学ホームページ／関連ページ】

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/tuition/tuition_info

授業料未納による除籍について

年度末の時点において、授業料の納入が完了していない者については、本学学部学則第３２条及び本学大学院学則第３３条に基づき、当該年度の３月３１日付けで除籍を行います。

授業料未納を理由として除籍となった者の復籍手続きについて

授業料未納を理由として除籍となった者については、救済措置として次の要領により復籍の申請手続きを行うことができます。

- (1) 授業料未納を理由として除籍となった者（前年度までの授業料の未納を理由として3月31日付けで除籍となった者）が、除籍年の4月中に未納の授業料を納入し、復籍を申請した場合には、4月1日に遡って復籍することができます。このことにより、在学期間は除籍前と通算することになり、修業年限の変更はありません。
- (2) 授業料未納を理由として除籍となった者（前年度までの授業料の未納を理由として3月31日付けで除籍となった者）が、除籍年の5月～春学期終了までの間に未納の授業料を納入し、復籍を申請した場合は、単位修得の見込み状況により、受入れ可能な期日（原則は夏学期開始日または10月1日）から復籍を認めることができます。この場合の授業料は、復籍後に在籍する授業料から納入することになります。
- (3) 授業料未納を理由として除籍となった者（前年度までの授業料の未納を理由として3月31日付けで除籍となった者）が、除籍年の夏学期開始日～9月までの間に未納の授業料を納入し、復籍を申請した場合は、単位修得の見込み状況により、受入れ可能な期日（原則は10月1日または冬学期開始日）から復籍を認めることができます。この場合の授業料は、復籍後に在籍する授業料から納入することになります。
- (4) 授業料未納を理由として除籍となった者（前年度までの授業料の未納を理由として3月31日付けで除籍となった者）が、除籍年の10月～秋学期終了までの間に未納の授業料を納入し、復籍を申請した場合は、単位修得の見込み状況により、受入れ可能な期日（原則は冬学期開始日または次年度の各学期開始日）から復籍を認めることができます。この場合の授業料は、復籍後に在籍する授業料から納入することになります。
- (5) 授業料未納を理由として除籍となった者（前年度までの授業料の未納を理由として3月31日付けで除籍となった者）が、除籍年の冬学期開始日以降に未納の授業料を納入し、復籍を申請した場合は、単位修得の見込み状況により、受入れ可能な期日（原則は次年度の各学期開始日）から復籍を認めることができます。この場合の授業料は、復籍後に在籍する授業料から納入することになります。
- (6) 除籍処分を取り消しのみを求める申請は受け付けません。
- (7) 復籍の申請が可能な期間は、除籍日の翌月から通算して3年とします。ただし、本学学部学則第32条及び本学大学院学則第33条に基づき、授業料未納を理由として除籍となった者が復籍し、再び除籍となった場合には、この取扱いは適用されません。

授業料の免除・徴収猶予・分納について

修学援助の一環として、経済的理由により授業料の納入が困難であり、学力基準を満たす方を対象に、本人の申請に基づき選考のうえ、予算の範囲内で授業料の全額または半額の免除、収納猶予、及び授業料分納を認める制度があります。

《授業料免除等の申請対象者》

- ① 経済的理由によって納入が困難であり、学力基準を満たす方。
- ② 前期または後期の授業料の納入前6ヶ月以内に、出願者の主たる学資負担者が死亡または出願者本人もしくは出願者の主たる学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納入が困難であると認められる方。

《授業料収納猶予・授業料分納の申請対象者》

大阪大学ホームページを参照してください。

申請に関する情報は、大阪大学ホームページ等でご案内しています。KOAN掲示板でも通知が行われます。申請を希望する方はホームページ等を必ず確認し、定められた期日までに申請手続きを行うようにしてください。

【窓口及び問い合わせ先】

吹田学生センター（ICホール1階） 06（6879）7088・7089

大阪大学ホームページ／関連ページ】

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/tuition/remission>

奨学金

日本学生支援機構第一種・第二種奨学金（外国人留学生を除く）について

日本学生支援機構「第一種・第二種」奨学金は、学業、人物ともに優れ、かつ、健康であって、経済的理由により学資の支弁が困難と認められる方に貸与される制度です。貸与を受けた奨学金は返済の義務があり、必ず返済しなければなりません。また、条件を備えていても、推薦人数に限りがあるため必ずしも希望者全員が採用されるとは限りません。

奨学金の種類と貸与月額は次のとおりです。

（平成29年1月現在）

奨学金の種類	貸与月額	
大学「第一種」奨学金 （無利子）	自宅通学	30,000 円、45,000 円のいずれかを選択
	自宅外通学	30,000 円、51,000 円のいずれかを選択
大学「第二種」奨学金 （有利子）	30,000 円、50,000 円、80,000 円、100,000 円 120,000 円の中から希望する金額を選択	
大学院「第一種」奨学金 （無利子）	博士前期課程	50,000 円、88,000 円のいずれかを選択
	博士後期課程	80,000 円、122,000 円のいずれかを選択
大学院「第二種」奨学金 （有利子）	50,000 円、80,000 円、100,000 円、130,000 円 150,000 円の中から希望する金額を選択	

申請に関する情報は、大阪大学ホームページ等でご案内しています。KOAN掲示板でも通知が行われます。申請を希望する方はホームページ等を必ず確認し、定められた期日までに申請手続きを行うようにしてください。

【窓口及び問い合わせ先】

豊中学生センター（豊中キャンパス・学生交流棟2階）

奨学金担当（gakusei-sien-en2@office.osaka-u.ac.jp）

【大阪大学ホームページ／関連ページ】

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/tuition/scholar/jasso>

地方公共団体及び民間奨学団体奨学金（外国人留学生を除く）について

地方公共団体及び民間奨学団体奨学会による奨学金（以下、「各種奨学金」という。）は、学業、人物ともに優れ、かつ、健康であって、経済的理由により学資の支弁が困難と認められる方に給与もしくは貸与される制度です。

学生センターで取り扱っている各種奨学金には、「候補者を選考し大学から推薦する奨学金」と「希望者が直接出願する奨学金」があります。「候補者を選考し大学から推薦する奨学金」につ

いては、推薦人数に限りがあり、またそれぞれの奨学会での推薦基準があるため、必ずしも申請者全員が推薦候補者になるとは限りません。

また、民間奨学団体等奨学会の奨学生に採用されると、在学中のみならず卒業後も民間奨学団体等との関係は続きます。大阪大学から推薦されたという自覚を持ち、向学心をさらに高め、交流会、面談、研修会への出席や、生活状況調書、成績表、奨学金受領書の提出など、奨学生としての義務を果たさなければなりません。これらの義務を怠った場合、辞退や採用取り消しとなる場合もありますので、十分に考慮の上、申請してください。

対象者は奨学金の種類により異なります。申請方法は次のとおりです。

《候補者を選考し大学から推薦する奨学金》

大学からの奨学生候補者は、申請登録者から選考します。申請に関する情報は、大阪大学ホームページ等でご案内しています。KOAN掲示板でも通知が行われます。申請を希望する方はホームページ等を必ず確認し、定められた期日までに申請手続きを行うようにしてください。

《希望者が直接出願する奨学金》

大学に募集案内があった場合、その都度KOAN掲示板にてお知らせします。地方公共団体奨学金については、本学に募集案内が来ない場合があるので、直接、出身地等の教育委員会等へ照会してください。

【窓口及び問い合わせ先】

吹田学生センター（ICホール1階） 電話：06（6879）7084

【大阪大学ホームページ／関連ページ】

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/tuition/scholar/gov_n_private

外国人留学生奨学金について

民間奨学金は、その都度KOAN掲示板及び人間科学研究科国際交流室前掲示板にてお知らせします。

【窓口及び問い合わせ先】

人間科学研究科国際交流室

【人間科学研究科国際交流室サイト】 <http://oie.hus.osaka-u.ac.jp>

健康管理・学生相談

学生定期健康診断について

学生定期健康診断は、学校保健法及び大阪大学学生健康診断規程で受検が義務付けられている健康診断です。全学生が必ず受検しなければなりません。毎年4月の指定する期間に実施されますが、日時、場所等についてはKOAN掲示等でお知らせします。

なお、特に学部卒業年次・大学院修了年次の学生は、この学生定期健康診断を受検していない場合には、就職や進学の際に必要な健康診断書が発行されませんので注意してください。

保健センターの診療について

大阪大学保健センターは、豊中本室、吹田分室、箕面分室において、学内の保健管理、健康相談、疾病予防、救急措置、精神衛生相談等を主な業務として、学生・教職員の健康保持、健康増進を図っています。保健センターには、医師、看護師、臨床検査技師等が勤務し、診察や健康相談等を行っています。女性のカウンセラーや医師による女性専門の外来も開設しています。受付時間、診察・相談等の対応時間及び診療科ごとの週間診療予定表など、詳細は下記ホームページを確認してください。

大阪大学保健センター http://www.healthcarecenter.osaka-u.ac.jp/2_consul.html

学生相談室について

大阪大学には、学生相談室が設置されています。本学の学生は誰でも利用でき、経験豊かなブロのカウンセラーに相談することができます。相談内容、相談者氏名は誰にも知られないよう秘密は厳守されます。学生相談室ではどんな相談でも受け付けますので、何か相談したいことがあれば、安心して相談してください。なお、相談を希望する場合は事前に予約が必要となります。詳細は下記ホームページを参照してください。

学生相談室 http://www.healthcarecenter.osaka-u.ac.jp/3_stu.html

ハラスメント関連相談室について

大阪大学では、ハラスメントのない大学を目指し、その発生の防止や解決に取り組んでいます。各キャンパスには、全学のセクシュアル・ハラスメント相談室及びアカデミック・パワー等ハラスメント相談室がそれぞれ設置されており、各相談室では、専門の相談員（カウンセラー）が問題の解決にあたっています。また、人間科学研究科にもハラスメント相談室が設置されており、各相談員が相談に応じています。ハラスメントの被害に遭ったときや周囲の人が被害に遭って困っているときは、勇気を出して相談しましょう。なお、全学のハラスメント関連相談室での相談を希望する場合は、事前に電話予約を行ってください。詳細は下記ホームページを確認してください。

ハラスメント関連相談室 http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/prevention_sh
人間科学研究科ハラスメント相談室 <http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/harassment.html>

保険・リスク管理

学生教育研究災害傷害保険（学研災）について

学生教育研究災害傷害保険（学研災「がっけんさい」）は、国内外における教育研究活動中に学生が被った「けが」に対して補償を提供するために設立された保険制度です。大阪大学では、全ての対象者がこの保険に加入することとしています。加入がまだの方は、すぐに加入の手続きをとってください。

注1）人間科学部の学部生は各自で加入する必要があります。なお、学外で行われる授業や実習への参加、海外へ留学する場合などは、この保険の加入が原則必要となります。

注2）人間科学研究科の大学院生については、人間科学研究科の公費負担により、全ての学生（研究生等正規生は除く）に対して、この保険の加入を行っていますので、新たに加入手続きを行う必要はありません。

加入方法の詳細、保険金の内容、保険金の請求手続き等については、下記ホームページを参照してください。

【窓 口】

豊中生協事務所 （豊中キャンパス豊中福利会館4階）

吹田工学部生協事務所 （吹田キャンパスC8棟 仮設店舗）

【問い合わせ先】

大阪大学生活協同組合総務部（豊中福利会館4階） 06-6841-3326

【大阪大学ホームページ／関連ページ】

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/general/insurance.html>

学生教育研究賠償責任保険（学研賠）について

学生教育研究賠償責任保険（学研賠「がっけんばい」）は、正課・学校行事中やインターンシップ・介護体験活動・教育実習・保育実習及びその往復中に、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりしたことによる法律上支払わなければならない損害賠償金を補償する保険です。「学研災」に先に加入していなければ、「学研賠」に加入することはできません。加入希望者は必ず「学研災」に加入していることを確認のうえ、大学生協の保険窓口で必要書類を受け取り、郵便局の窓口で保険料を払い込んでください。

注1）人間科学部の学部生は各自で加入する必要があります。なお、学外で行われる授業や実習への参加などは、この保険の加入が原則必要となります。

注2）人間科学研究科の大学院生については、「学研災」と同様に、人間科学研究科の公費負担により、全ての学生（研究生等正規生は除く）に対して、この保険の加入を行っていますので、新たに加入手続きを行う必要はありません。

留学生危機管理サービス（OSSMA）について

大阪大学では、学生が以下の対象に該当する海外渡航を行う場合には、留学生危機管理サービス（OSSMA）の加入を義務付けています。OSSMAは、海外渡航中に困りごとや相談したいことが発生した場合に、24時間365日、日本語で適切なサポートが受けられるサービスです。該当する海外渡航を計画する場合には、事前に人間科学研究科教務係窓口に申し出てください。手続きに必要な書類をお渡しします。詳細は下記ホームページを確認してください。

《対象となる海外渡航》

- ① 大学間及び部局間交換留学
- ② 大学が主催する短期派遣プログラム（語学研修、インターンシップ等）
- ③ 本学を通じて経済的支援（奨学金等）を受ける派遣

【大阪大学ホームページ／関連ページ】

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ossma/ossma>

抗体検査について

人間科学部・人間科学研究科では、多くの学部学生や大学院生が、保育所・幼稚園・小学校・中学校、さらには社会福祉施設や病院等の外部機関・外部施設において、実習や研究活動を行っています。このような現場に出かける際には「事前予防」に留意しながら、「病気を持ち込まない、持ち帰らない」こと、あるいは「病気の発生源にならないこと」が、学生自身及び現場の人々の健康や安全を守るためにも重要なことであり、リスク管理の観点からも強く求められています。また、人間科学研究科に来校する外部の者（心理相談者、実験協力者等）に対応する学生についても、同様の配慮が必要となります。

このことから、人間科学部・人間科学研究科の学生が、外部機関等において実習や研究活動を行う場合、または人間科学研究科に来校する外部の者に対応予定の場合には、抗体検査（風疹、麻疹、水痘、ムンプスの4種）を受けることになっており、人間科学部・人間科学研究科の該当学生を対象に、毎年5月と10月の年2回、保健センター（吹田分室）において抗体検査を実施しています。実施日及び申し込み期限（指導教員を通じて教務係へ申し込む）等についてはKOA N掲示板等でお知らせします。なお、抗体検査料は学生3割負担、大学7割負担となります。

その他リスク管理について

教育研究活動、学生生活には、常にあらゆるリスクが内在しています。人間科学研究科・人間科学部では、安全対策やリスク管理のガイドブック「リスクのくすり」を作成し、学生に配付しています。必ず読むようにしてください。

学部・研究科内の施設等

学生による講義室等の使用について

授業または大学（学部）の行事に支障のない限り、学生は研究または集会のために、本研究科・学部所管の講義室を使用することができます。その場合、責任者は教務係に所定の使用願を使用日の1週間前までに提出し、許可を受けてください。

なお、講義室その他を使用する（した）場合は、特に次の事項について留意してください。

- （１）研究会または集会終了後は、備品、器具類をもとの状態にもどし、授業等に差し支えないようにしておいてください。
- （２）火気の処理及び消灯については、特に注意してください。
- （３）講義室を使用する際にも、省エネルギー対策を効果的に推進するため、無駄な光熱費が発生しないよう努めてください。

リフレッシュルームの利用について

本館2階、3階に学生や教職員の集いの場としてリフレッシュルームを設けています。リフレッシュルームには、学生が使用できるコピー機や飲料の自動販売機も設置しています。

インターナショナルカフェの利用について

本館1階には、インターナショナルカフェを設けており、休憩や昼食時などの憩いの場としてだけでなく、情報交換、語学や様々な学術向上の場、外国人留学生を含む異文化交流の場として利用できるよう、学生や教職員に幅広く開放していますので、是非活用してください。

なお、インターナショナルカフェをイベント等で使用する場合は、教務係に所定の使用願を使用日の10日前までに提出し、許可を受けてください。

ラーニング・コモンズの利用について

北館2階の図書室の西側スペースに、ラーニング・コモンズを設けています。ラーニング・コモンズは、「プレゼンテーションエリア」と「グループ学習エリア」に分かれており、基本的に、学生同士あるいは学生と教職員が「共に学ぶ」ための共有の学習スペースとして広く開放しています。なお、授業の一環として行うアクティブラーニングやグループワークにも積極的に開放しており、また、ワークショップ等の開催、学習に係るイベントの場としても提供されています。使用時間は平日の8時30分から20時です。

図書室の利用について

北館2階には、人間科学部図書室があります。人間科学部・人間科学研究科の学際的な性格を反映し、自然科学、社会科学、人文科学と多岐にわたる図書資料、定期刊行物等が収められています。全学の蔵書から資料を取り寄せるサービスも利用することができます。開室時間は平日の午前10時15分から午後5時です。

人間科学部図書室 <http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/huslibrary.html>

計算機室の利用について

本館1階の計算機室には、サイバーメディアセンターの分散端末（Windows8.1）を10台設置しています。授業の予習や復習、研究にこれらの情報端末を活用してください。開室時間は平日の午前8時30分から20時までです。なお、分散端末にトラブルが発生した場合はサイバーメディア室まで報告してください。

計算機室 http://cmo.hus.osaka-u.ac.jp/computer_room.html

テニスコートの使用について

本学部のテニスコートの使用要領は次のとおりです。この要領を遵守して使用するようしてください。

1. コートはテニス専用として使用してください。
2. 使用者は、本学部の学生、本研究科の大学院生・教職員及び学部長が許可した者とします。
3. 使用時間は、月曜日から金曜日までは午前8時30分から19時までとします。なお、時間外の使用については、事前に申し込み許可を得てください。土曜日、日曜日、祝日の使用については、使用日の3日前までに申し込み許可を得てください。
4. 使用に際しては、使用心得を厳守してください。
5. 申し込みの受付等、使用に関しては教務係で取扱います。
6. 使用後の鍵は、速やかに必ず教務係（教務係窓口が閉まっている場合は教務係入口横の鍵箱）に返却してください。返却が遅れたり、返却されなかったりすると、他の使用者が使えなくなりますので留意してください。

夜間及び土・日・祝日の本研究科建物への入退館について

本研究科では、安全確保を主な目的として、入退館管理システムを導入しています。20時00分から翌日の7時00分までの夜間及び土・日・祝日等の終日は、建物1・2階の主な出入口及び本館1階の計算機室を電気錠により施錠するため、入館の際には専用カードが必要となります。なお、学部3・4年生、大学院生及び研究生で時間外に入館が必要な場合には、申出により専用カードを配付します。専用カードが必要な場合は教務係に申し出てください。

なお、卒業（修了）または退学により学籍を離れるときは、専用カードを必ず教務係に返却するようにしてください。

建物内の禁煙について

本研究科には喫煙場所はありません。喫煙は学内の指定する場所で行ってください。

人間科学研究科各室及び研究科附属未来共創センターの紹介

サイバーメディア室

サイバーメディア室は、本館1階（M124）にあり、本研究科の教育・研究の基盤となるネットワークの維持・管理を担当しています。サイバーメディア室には、ネットワークやIT機器に関する専門の職員が常駐し、それらの活用やトラブルなどについて相談に応じています。さらに公式ホームページを通して、本研究科の研究内容などを常時情報発信しています。また、サイバーメディアセンター分散端末を設置する計算機室も管理しトラブル等にも対応しています。

開室時間 10:00～16:45（昼休み12:00～13:00）

※土・日曜日、祝日、年末年始を除きます

サイバーメディア室ホームページ <http://cmo.hus.osaka-u.ac.jp>

国際交流室

国際交流室は、本館2階（M245）にオフィスを構え、留学を希望する学生や留学生の相談や支援を行っています。また、国際交流に関する様々な企画・イベントも開催しています。

オフィスアワー（ご相談がある場合は事前に予約していただくことをお勧めします。）

火曜日12:00～16:00、木曜日12:00～16:00

※オフィスアワー以外の時間帯でも事前予約のうえ相談可

※祝日、年末年始を除きます

TEL（FAX） 06-6879-4038

E-mail oie-core@（@は半角、@以下は hus.osaka-u.ac.jp）

国際交流室ホームページ <http://oie.hus.osaka-u.ac.jp>

学生支援室

学生支援室は、本館2階（M245）にオフィスを構え、学生の就職・進路支援やインターンシップの実施などを行っています。また、就職及び他大学大学院入試の情報を収集しており、関連図書の出借も行っていますので活用してください。さらに、学生生活上の諸問題の相談窓口として相談にも応じていますので気軽に利用してください。

開室時間 10:00～17:00

※土・日曜日、祝日、年末年始を除きます

TEL（FAX） 06-6879-4043

E-mail student@（@は半角、@以下は hus.osaka-u.ac.jp）

学生支援室Facebook <http://sso.hus.osaka-u.ac.jp>

教育改革推進室では、本研究科・学部学生の教育研究活動をさらに活発にするための取り組みや支援等を行っています。平成28年度は以下の支援等を行いました。

《大学院生対象》

- ・論文等の外国語校正支援
- ・大学院学生国際学会海外派遣支援金
- ・大学院学生研究集会開催支援金

《学部生・大学院生対象》

- ・英語力向上セミナー TOEIC®対策講座
- ・学部生・大学院生等による国際研究交流プロジェクト

このような支援等は研究科ホームページ等を通じてお知らせしています。関心のある方はホームページを参照してください。

教育改革推進室ホームページ

http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/students/study_support.html

未来共創センター

人間科学研究科附属未来共創センターは、本研究科教員の個別の学問領域における研究の機能強化だけでなく、異なる研究領域の研究者との接触や協働を通して、新たな融合的学問領域の展開と、国内外の現場に寄り添った実践的な教育研究活動の実現を目指しています。

学部学生や大学院生は、本センターが企画・運営する公開講座、セミナーやサイエンス・カフェ、さらに学術図書の企画・出版、国内外での課外活動とインターンシップ等の事業に参加することで、研究成果の一般社会への還元方法やコミュニケーション力・対話力の向上、及びプロジェクトの企画・運営能力などの実践的能力を身に着けることが期待できます。

学生が主体的に関わるこれらの実践教育型の諸活動については、その学修成果等に対して単位を認定する仕組みも用意しています。

未来共創センターホームページ

<http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/mirai-kyoso>

就 職

就職活動について

就職を希望する者は、あらかじめ志望する職種等を各自研究し、指導教員、学生支援室講師と相談して就職方針を決めてください。また、下記の事項に留意して活動してください。詳細は、大阪大学学生・キャリア支援課及びキャリア支援ユニット、もしくは人間科学研究科学生支援室におたずねください。

(1) 就職関係の情報は、以下のホームページに掲載されていますので活用してください。

- ① 大阪大学就職・進学情報 <http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/career>
- ② 大阪大学就職活動支援サイト <https://cs-web.osaka-u.ac.jp/recruit/>
- ③ 人間科学研究科学生支援室サイト <http://sso.hus.osaka-u.ac.jp>

(2) 就職関係の情報や通知連絡は、すべてホームページ、掲示、KOAN掲示板にて行われますので、常時確認するようにしてください。

(3) 就職活動の開始時期に合わせて、「大阪大学就職ガイドブック」を配布します。4月の履修ガイダンス、または人間科学研究科教務係で配布を行っていますので受け取るようにしてください。

(4) 進路・就職先が決定した場合、KOANのTOP画面から「進路・就職報告システム」に入り、必ず進路情報・就職先情報の登録を行ってください。

(5) 会社案内、就職ガイド、就職関連図書等は、人間科学研究科学生支援室及び大阪大学学生センターに置いていますので、就職活動に大いに利用してください。

(6) 人間科学部（人間科学研究科）内で開催される就職ガイダンス等は積極的に活用・参加してください。

公務員について

公務員を志望する者には、通例、次のような各種資格試験があります。ただし、人間科学部（人間科学研究科）に通知されるものはごく一部ですので、志望者は各自早めに、国、各都道府県、各市区町村等のホームページなどを確認するとともに、それぞれの担当窓口にお問い合わせるようにしてください。

(1) 国家公務員

国家公務員採用試験は、「総合職試験」、「一般職試験」、「専門職試験」に区分されています。さらに「総合職試験」は、「院卒者試験」と「大学程度試験」の二種類に分かれています。また、例年、大学キャンパス内において、人事院近畿事務局による試験説明会も開催されますので、志望者は参加することが望まれます。

国家公務員採用試験情報 <http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm>

（２）家庭裁判所調査官補

家庭裁判所調査官補として採用されるには、裁判所職員採用総合職試験人間科学区分（院卒者試験・大学程度試験）に合格する必要があります。受験申込受付は、例年、４月上旬です。

（３）地方公務員上級職

都道府県、市区町村などの地方公共団体では、それぞれ採用試験が行われています。詳細等については、事前に、各団体のホームページを確認するとともに、担当窓口にお問い合わせるようにしてください。

（４）教育公務員

各府県及び各政令指定都市の教育委員会では、高等学校、中学校の教員採用試験が毎年７月頃に実施されています。詳細等については、事前に、各教育委員会のホームページを確認するとともに、担当窓口にお問い合わせるようにしてください。

（５）児童相談所専門職員（児童福祉司）

児童福祉司は、児童の保護その他児童の福祉に関する事項について相談に応じ、専門的技術に基づいて必要な指導を行う等、児童の福祉増進に努めることを職務としています。児童福祉司になるには、在学中の心理学、教育学もしくは社会学に関連のある授業科目の単位を修得しておく必要があります。なお、採用試験は、各都道府県及び各政令指定都市において実施されます。詳細等については、事前に、各都道府県及び各政令指定都市のホームページを確認するとともに、児童福祉主管課にお問い合わせるようにしてください。

（６）福祉関係職

社会福祉主事、知的障害者福祉司、身体障害者福祉司、児童福祉施設・知的障害者援護施設職員等があります。なお、採用試験は、各都道府県及び各政令指定都市において実施されます。詳細等については、事前に、各都道府県及び各政令指定都市のホームページを確認するとともに、担当主管課にお問い合わせるようにしてください。

（７）社会教育主事補

ごく少数の自治体が、大学卒業者に対して特別に社会教育主事補の選考を行うことがあります。

資格・免許

教育職員免許状

大学を除くすべての国公立学校の教育職員（常勤、非常勤を問いません）になるためには、それぞれ相当の教育職員免許状を有する必要があります。本学部（研究科）で取得できる免許状は下表のとおりです。

例年4月初旬に教職課程ガイダンスが行われます。教育職員免許状取得希望者は参加してください。

教育職員免許状の取得については、『大阪大学【教職課程ブックレット】①《教職課程への招待》』を参照してください。このブックレットは、上記の教職課程ガイダンスで配布されます。教務係でも入手可能です。

なお、教職課程及び教育職員免許状に関するお知らせは、すべてKOAN掲示板により行われます。

課 程	免許状の種類	免許状の教科
学 部（人間科学部）	中学校教諭一種免許状	社会
	高等学校教諭一種免許状	地理歴史、公民
大学院（人間科学研究科）	中学校教諭専修免許状	社会
	高等学校教諭専修免許状	地理歴史、公民

大阪大学ホームページ／教職課程

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/career/teacher/teacher-certification-course>

社会教育主事（任用資格）

社会教育主事は、社会教育を行う者に専門的、技術的な助言と指導を与えることができる資格です。社会教育主事となるには、大学に2年以上在学して、62単位以上を修得し、かつ大学において文部省令（昭和26年6月21日文部省令第12号）で定める社会教育に関する科目の単位を修得しなければなりません。ただし、社会教育主事の職に就くには、1年以上の社会教育主事補としての経験が必要となります。前記の社会教育に関する科目の単位の修得とは、次表に掲げる科目の単位を修得しなければなりません。

平成29年度学部入学者適用（第3年次編入学生は除く）

指定科目	単位	学部における認定科目及び単位	
生涯学習概論	4	生涯教育学（2単位）	共生教育学（2単位）
社会教育計画	4	教育社会学（2単位）	教育動態学（2単位）
		コミュニティ教育学（2単位）	教育文化学（2単位）
		教育制度学（2単位）	
社会教育演習、社会教育実習又は社会教育課題研究のうち1以上の科目	4	生涯教育学演習Ⅰ（2単位）	生涯教育学演習（2単位）
		教育環境学実験実習Ⅰ（2単位）	教育環境学実験実習Ⅱ（2単位）
		教育社会学演習Ⅰ（2単位）	教育文化学演習Ⅰ（2単位）

社会教育特講Ⅰ (現代社会と社会教育)	2	ジェンダーと教育(2単位)	教育と社会(2単位)
		コミュニティ教育学(2単位)	
社会教育特講Ⅱ (社会教育活動・事業・施設)	4	教育制度学(2単位)	教育人間学Ⅰ(2単位)
		教育心理学Ⅰ(2単位)	臨床心理学Ⅰ(2単位)
		教育工学Ⅰ(2単位)	学校経営学Ⅰ(2単位)
社会教育特講Ⅲ (その他必要な科目)	6	教育学概論(2単位)	現代日本の教育問題(2単位)
		教育人間学Ⅱ(2単位)	外国教育史(2単位)
		教育工学Ⅱ(2単位)	教育心理学Ⅱ(2単位)
		臨床心理学Ⅱ(2単位)	日本教育史(2単位)
		人権教育論(2単位)	
		市民活動論(2単位)	ボランティア社会論(2単位)

認定心理士

「公益社団法人日本心理学会認定心理士(以下、認定心理士と呼びます)」は、公益社団法人日本心理学会がその資格取得希望者に対して、“この人物は心理学に関する標準的な基礎知識と基礎技術とを正規の課程において修得している”ということを認定する資格であり、現在において、同学会が心理学に関して認定している唯一の資格です。

資格取得の基礎条件は、四年制大学を卒業し学士の学位を取得もしくは大学院修士課程を修了し修士の学位を取得していることに加え、認定資格細則が指定する心理学関係の所定の単位を修得していることなどです。その所定の単位は、心理学概論や心理学研究法、心理学実験実習等の基礎科目、および知覚心理学や教育心理学、社会心理学等の選択科目を中心に構成され、総単位は36単位以上が求められます。

詳細については、公益社団法人日本心理学会のホームページに掲載されている「資格申請の手引き」を参照してください。

公益社団法人日本心理学会のホームページ <http://www.psych.or.jp>

臨床心理士(一種)

臨床心理士は、大学院教育で得られる高度な心理学的知識と技能を用いて、臨床心理査定(心理テスト)、臨床心理面接(心理療法・心理カウンセリング)、臨床心理学的地域援助およびそれらの研究調査等の業務を行います。

臨床心理士の資格は、文部科学省の認可を受けた「公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会」によって認定されます。資格審査は、書類審査、筆記試験、および口述審査により、原則として年1回行われます。平成13年度以降の入学者は、本研究科臨床心理学研究分野の博士前期課程を修了後、臨床心理士の資格試験を受けることが出来ます。

【修得が必要な授業科目と単位について】

「公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会」が指定している必修科目および選択必修科目は、次のとおりです。必修科目16単位以上に加え、選択必修科目についてはA～E群すべてにつき各2単位以上、合計26単位以上を修得しなければならない。

「日本臨床心理士資格認定協会」が指定する科目		左記に該当する本研究科の開講科目
必修科目	臨床心理学特論（4単位）	臨床心理学特講Ⅰ（2単位） 臨床心理学特講Ⅱ（2単位）
	臨床心理面接特論（4単位）	臨床心理面接特講Ⅰ（2単位） 臨床心理面接特講Ⅱ（2単位）
	臨床心理査定演習（4単位）	臨床心理査定演習Ⅰ（2単位） 臨床心理査定演習Ⅱ（2単位）
	臨床心理基礎実習（2単位）	臨床心理基礎実習Ⅰ（2単位） 臨床心理基礎実習Ⅱ（2単位）
	臨床心理実習（2単位）	臨床心理実習Ⅰ（2単位） 臨床心理実習Ⅱ（2単位）
選択必修科目A群	心理学研究法特論	—
	心理統計法特論	行動統計科学特講Ⅰ（2単位） 行動統計科学特講Ⅱ（2単位）
	臨床心理学研究法特論	臨床心理学研究法特講（2単位）
選択必修科目B群	人格心理学特論	人格心理学特講（2単位）
	発達心理学特論	比較発達心理学特講Ⅱ（2単位）
	学習心理学特論	—
	認知心理学特論	応用認知心理学特講Ⅰ（2単位） 応用認知心理学特講Ⅱ（2単位）
	比較行動学特論	—
選択必修科目C群	教育心理学特論	教育心理学特講（2単位）
	社会心理学特論	社会心理学特講Ⅰ（2単位） 社会心理学特講Ⅱ（2単位）
	人間関係学特論	—
	社会病理学特論	—
	家族心理学特論	—
	犯罪心理学特論	—
選択必修科目D群	臨床心理関連行政論	—
	精神医学特論	—
	心身医学特論	—
	神経生理学特論	—
	老年心理学特論	臨床死生学・老年行動学特講Ⅰ（2単位） 臨床死生学・老年行動学特講Ⅱ（2単位）
	障害者（児）心理学特論	障がい児（者）心理学特講Ⅰ（2単位） 障がい児（者）心理学特講Ⅱ（2単位）
選択必修科目E群	精神薬理学特論	—
	投映法特論	—
	心理療法特論	心理療法特講（2単位）
	学校臨床心理学特論	—
	グループ・アプローチ特論	—
選択必修科目E群	臨床心理地域援助特論	—

具体的にどのような授業科目や臨床経験が規定に適合するのか知りたい場合は、「公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会」監修の「臨床心理士になるために（誠信書房）」を参照してください。

公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会 <http://fjcbcp.or.jp>

社会調査士・専門社会調査士

社会調査士・専門社会調査士は、社会調査に関する教育制度を整備し、人材育成を組織化すると同時に、その専門的職業としての資格の制度化をはかるために、日本教育社会学会、日本行動計量学会、日本社会学会の3学会は、2008年度に「一般社団法人社会調査協会」を設立し、社会調査士と専門社会調査士の認定を始めました。

社会調査士は、学部卒業レベルの資格であり、専門社会調査士は、大学院修士課程修了レベルの資格です。

社会調査士を取得するためには、大阪大学人間科学部・人間科学研究科の認定科目を「一般社団法人社会調査協会」の定めた規定にあわせて修得し、卒業と同時に資格申請をしなければなりません。資格取得希望者は、必ず「一般社団法人社会調査協会」のホームページに公開されている大阪大学人間科学部の各年度の認定科目一覧を参照してください。

専門社会調査士を取得するためには、以下の条件を満たすことが必要とされています。

- 1) 社会調査士の資格を有すること
- 2) 所定の科目の単位を修得すること
- 3) 社会調査結果を用いた修士論文を執筆すること

専門社会調査士についても、大阪大学人間科学研究科の認定科目は修得年度によって異なります。必ず「一般社団法人社会調査協会」のホームページを確認してください。

一般社団法人社会調査協会のホームページ <http://jasr.or.jp>

人間科学研究科・人間科学部教員一覧

大阪大学大学院人間科学研究科・人間科学部教員等一覧（平成 29 年 4 月 1 日時点）

（兼）は本研究科内兼任を示す。

〔兼〕は他部局教員等の本研究科兼任を示す。

人間科学研究科長・人間科学部長 教授 栗本 英世

人 間 科 学 専 攻			
行 動 学 系	人間行動学講座		
	基礎心理学	教 授	赤井 誠生
		教 授	入戸野 宏
		教 授	森川 和則
		助 教	富田 瑛智
	応用認知心理学	教 授	篠原 一光
		助 教	紀ノ定 保礼
	社会心理学	教 授	釘原 直樹
		准 教 授	綿村 英一郎
		助 教	寺口 司
	臨床死生学・老年行動学	教 授	佐藤 眞一
		准 教 授	権藤 恭之
		助 教	豊島 彩
	環境行動学	教 授	三好 恵真子
		准 教 授	青野 正二
		准 教 授	小林 清治
	安全行動学	教 授	臼井 伸之介
		助 教	森泉 慎吾
	行動生態学講座		
	比較発達心理学	教 授	金澤 忠博
		助 教	清水 真由子
	行動生理学	准 教 授	八十島 安伸
		助 教	篠原 恵介
	行動統計科学	教 授	足立 浩平
	生物人類学	准 教 授	中野 良彦
		助 教	後藤 遼佑
	比較行動学	（兼）教 授	中道 正之
		（兼）講 師	山田 一憲
	行動学系共通	助 教	太子 のぞみ
社 会 学 ・ 人 間 学 系	社会環境学講座		
	社会学理論	教 授	川端 亮
	現代社会学	（兼）教 授	稲場 圭信
		准 教 授	高谷 幸
	経験社会学	（兼）教 授	川端 亮
	社会データ科学	教 授	吉川 徹

社会学・人間学系	コミュニケーション社会学	教 授	牟田 和恵
		准 教 授	辻 大介
	文化社会学	教 授	Scott North
		教 授	山中 浩司
	比較社会学	〔兼〕 教 授	石川 真由美(グローバル・ユニバーシティ・センター)
	福祉社会論	教 授	斉藤 弥生
		講 師	遠藤 知子
		客員准教授	水谷 綾
	社会環境学講座共通	助 教	鈴木 彩加
		助 教	樋口 麻里
	基礎人間科学講座		
	科学哲学	教 授	中山 康雄
	現代思想	教 授	村上 靖彦
		(兼) 教 授	檜垣 立哉
	比較文明学	教 授	Wolfgang Schwentker
		(兼) 准 教 授	鈴木 広和
	人類学	(兼) 教 授	栗本 英世
		教 授	中川 敏
		教 授	Zgusta Richard
		教 授	福岡 まどか
	科学技術と文化	教 授	白川 千尋
		〔兼〕 教 授	池田 光穂(COデザインセンター)
		准 教 授	森田 敦郎
		特任准教授	JENSEN CASPER BRUUN
		〔兼〕 准 教 授	大村 敬一(言語文化研究科)
教育学系	臨床教育学講座		
	教育人間学	教 授	藤川 信夫
		准 教 授	岡部 美香
	教育工学	教 授	前迫 孝憲
		〔兼〕 教 授	齋藤 貴浩(経営企画オフィス)
	教育心理学	准 教 授	西森 年寿
		教 授	藤岡 淳子
		准 教 授	野坂 祐子
	教育コミュニケーション学	〔兼〕 特 任 講 師	上原 秀子(ハラスメント相談室)
		教 授	三宮 真智子
		助 教	山口 洋介
	臨床心理学(臨床心理士養成コース)	教 授	井村 修
		教 授	老松 克博
		(兼) 教 授	藤岡 淳子
		准 教 授	佐々木 淳
		准 教 授	野村 晴夫
		〔兼〕 准 教 授	石金 直美(保健センター)
		〔兼〕 准 教 授	平井 啓(経営企画オフィス)
		助 教	原田 真之介
		〔兼〕 助 教	竹中 菜苗(保健センター)

教育学系	教育環境学講座		
	教育社会学	教 授	近藤 博之
		准 教 授	中澤 渉
	教育制度学	教 授	小野田 正利
		准 教 授	園山 大祐
	生涯教育学	教 授	木村 涼子
		(兼) 教 授	山本 ベバリー・アン
		〔兼〕 教 授	有川 友子 (国際教育交流センター)
		(兼) 准 教 授	岡田 千あき
		助 教	藤根 雅之
教育文化学	(兼) 教 授	志水 宏吉	
	准 教 授	高田 一宏	
	助 教	中村 瑛仁	
教育学系共通	助 教	管生 聖子	
共生学系	未来共生学講座		
	共生の人間学	教 授	檜垣 立哉
		(兼) 教 授	藤川 信夫
	共生社会論	教 授	稲場 圭信
		教 授	志水 宏吉
		教 授	千葉 泉
	共生行動論	教 授	渥美 公秀
		〔兼〕 教 授	近藤 佐知彦 (国際教育交流センター)
		(兼) 准 教 授	権藤 恭之
	共生教育論	教 授	山本 ベバリー・アン
		(兼) 准 教 授	Don Bysouth
	グローバル共生学講座		
	国際協力学	教 授	澤村 信英
		(兼) 教 授	白川 千尋
	多文化共生学	教 授	藤目 ゆき
		〔兼〕 教 授	宮原 暁 (グローバルイニシアティブ・センター)
		〔兼〕 講 師	島園 洋介 (グローバルイニシアティブ・センター)
	地域創生論	教 授	大谷 順子
		教 授	河森 正人
		〔兼〕 准 教 授	住村 欣範 (グローバルイニシアティブ・センター)
	コンフリクトと共生	教 授	栗本 英世
		(兼) 講 師	山田 一憲
	共生学系共通	助 教	木村 友美
助 教		Mohacsi Gergely	

附属未来共創センター		
	(兼) 施設長	中道 正之
	教授	中道 正之
	准教授	岡田 千あき
	准教授	鈴木 広和
	准教授	Don Bysouth
	講師	孫 美幸
国際交流室	(兼) 室長	Scott North
	講師	安元 佐織
学生支援室	(兼) 室長	吉川 徹
	講師	前馬 優策
サイバーメディア室	(兼) 室長	前迫 孝憲
	助教	宮本 友介
	助教	ZAORSKI Spence
研究推進室	(兼) 室長	臼井 伸之介
教育改革推進室	(兼) 室長	木村 涼子
附属比較行動実験施設		
	(兼) 施設長	八十島 安伸
	講師	山田 一憲
心理教育相談室	(兼) 室長	老松 克博
図書室	(兼) 室長	山中 浩司
評価資料室	(兼) 室長	村上 靖彦
	助教	小林 卓也
安全衛生推進室	(兼) 室長	中野 良彦
人間科学コース（学部英語コース）	特任講師	Lam LaiMing
	特任助教	Kim Viktoriya
	特任助教	Streich Philip Alan
	特任助教	CAVALIERE PAOLA

Web上では、掲載を省略させていただきます。
学生の皆様は、配布している冊子版にてご確認ください。

時間割表やシラバスは、大阪大学大学院人間科学研究科・人間科学部
ホームページ／在学生の情報へ

<http://www.hus.osaka-u.ac.jp>

阪大(はんだい) 人科(じんか)



大阪大学大学院人間科学研究科
大 阪 大 学 人 間 科 学 部

〒565-0871 吹田市山田丘 1-2 電話 06(6877)5111(代表)

